大日本蠶絲會報

第五拾貳號

明治二十九年十月

目次

●論說
○桑樹モンパ病説　農學士　市川延次郎
○蠶種密藏試驗　　本多岩次郎

●寄書
○上蘇の早曉に就て　松下憲三郎
○遠州地方の夏蠶種製造業者に告ぐ　桔川熊重

●統計
○二十九年八月中生絲屑物輸出數量元價及收稅統計○二十九年八月中絹布類輸出數量元價統計○全世界生絲の產額○世界各國生絲產出比例○九月中横濱生絲出入及取引統計

●問答
○蠶卵貯藏に就て質問並に答○微粒子毒撲滅に就きて質問並に答○殺蛹器械に付質問並に答

●外報
○伊國生絲產出額及日伊商業媒介○人造絹絲現況○佛國蠶業奬勵會に關する意見○露東蠶絲商況○佛國生繭收穫高○黑玉生絲景況○黑玉蠶絲商況並伊國繭價上高

●雜報
○蠶業講習場開業式○蠶絲業狀況視察員報告○地遠絲仲買商の困難○枯桑を嗜食する夏蠶○蠶絲業に熱心の婦人○前橋市と上毛倉庫會社○生絲合名會社出張所○諏訪製絲家夜業を始む○生絲檢査規程の刪除改正○日本に於ける國家補助產業策○薪材運搬の畜架鐵路○瑞西國絲商アベキ氏○清國生絲檢査調○神戸生絲檢査所生絲檢査調○黑烟防止器に關する概要○清國產生絲及組物の盛況○蠶業別科傳習生の募集○製絲家の海外渡航○大坂蠶絲取引所○京都絲物會社○日本生絲貿易會社の設立認可○山縣に於ける四ケ原出身者○養蠶傳習生の勤勉○風害後の桑樹及善後策○組織新開の生絲論○千葉縣蠶種檢査成績○岩手縣二戸郡蠶事概況○有志者臨大會○小村蠶種品評會景況○百年餘經過の桑樹○蠶業に關する學校○沿道桑の大木多し○第二回品評會及小集會

●大日本蠶絲會第二回品評會開設廣告

本會第二回品評會來る十月二十三日より二十五日まで三日間東京市赤阪區赤阪溜池町大日本農會々堂に於て開設候に付き會員諸君は成るべく御出品且つ御參觀あらむことを希望す但し本會々員外と雖も篤志者の出品は之を諾し可成的多數出陳致し度に付き右出品方精々御勸誘相成度此段特に希望致候也

●大日本蠶絲會第二回品評會出品の種類

其他要領左の如し

一 出品の種類並に數量を定むること左の如し

蠶種　一種に付一普通製一枚以上
　　一框製五十錢分以上

繭　同　一升以上

生絲　同　一捻（十八匁）以上

一 出品は總て出品人自家の產製に限るものとす

一 出品は品評會の費用を補ふ爲め總て本會（寄附せらるゝものとす

一 出品は必ず會場に運送せらるべし但し出品運送費は總て出品人の自辨とす

一 審査は十月十八日より着手すべし

一 出品は審査委員之を審査し其優等なるものには褒賞を贈與す

一 會員外の出品には賞狀を贈與し賞品を贈與せざるものとす

東京市神田區美土代町貳丁目壹番地

大日本蠶絲會

●論說

●桑樹モンパ病菌（前號の續）

大日本蠶絲會員　市川延次郎

一病株に於ける病菌寄生の箇所　病菌の營養期中は菌體の大部分は病株の地下部に寄生し成熟期に達すれば病株の地上部凡そ三四寸の所に現出す故に其未だ成熟期に至らざる以前に於ては病徵の如何に由り病菌の有無を推察するに止まり株際の土を除き患部を掘出して詳細に檢査するにあらざれば容易に菌體を見ること能はず

一被害株の病狀　病菌の寄生に由て發病の當初は病株地上部の全體或は其一部に限り萎頽の狀を呈し葉片少しく小形となり且つ硬質を帶ぶるを常とす而して病害の進むに從ひ細梢より漸次に生活力を失ひ遂に全株枯死するに至る初めて病徵の外部に現はれてより以來全く枯株と成る間時日の長短は病株の老若被害の輕重等に由て差違あれども數月間を費すを常とす殊に立て通し仕立の株の如きは病菌寄生後數年を經過するも尙ほ依然たるもの往々之あり

一患部の狀態　病株を掘り採り其患部を檢するに被害の甚しきものは腐朽して悉く赤褐色を呈し樹皮

と内部組織とは全く離隔して其間空隙を生じ容易に離脱し得べし斯の如きは根部の先端に近き部分及細根に多く之を視る所にして病株の基脚部及太根の如きは斯く迄病害の甚しきに至るもの稀なれども多少の變色を免れず尙ほ患部の全體を詳細に檢するに其外面に紫褐色を帶べる無數の絲狀體の附着するを視る即ち病菌の菌絲の集合に由て成れる所謂菌絲束なるものなり

一病菌の營養　患部に附着する菌絲束は普通植物に於ける根莖及葉に類する作用を兼備し即ち病菌の營養及發育機關にして病菌は之に由て其滋養分を桑樹の體中より得て以て發育生長す故に被害桑樹は此寄生物の爲めに其身の滋養分を押領せらるゝの量益々多ければ其被害も亦從て愈々甚しきに至るなり而して菌絲束は患部の外面に附着するものは紫褐色を呈すれども桑樹の體内に侵入して之より滋養分を吸收するものは無色なり此無色菌絲は菌絲束を形成する菌絲の枝にて稍細小なるを常とす而して菌絲束の寄家に密着するは此無色菌絲を各所より分枝し恰も鏇を下ろしたる如く之を組織中に挿入するに由てなり

一病菌の發育　以上の如き方法に由り菌絲束は滋養分を得て漸次生長して屢々分枝し終に成熟期に至れば地上に向て伸長し各其太さを增加し互に相混交して織物の如き集合體を形成す是即ち病菌體の基礎にして暗紫褐色を帶び少しく色淡き邊緣を有し天鵞絨質の薄膜狀を呈し以て被害株の梢條の基脚部を覆ふ其内部には細微の土塊或は乾燥枯死せる枝葉の一部等を包含するとあり而して尙ほ生長を經續して其厚さ及幅共に增加し不定形の塊と變じ地面に添ひて横に扁平なる突起を生ず此突起は梢條の側面より一方或は兩方に生ずるものあり

一病菌の實體　被害梢條の基脚部を包み又其表面より横に突出する塊は病菌の實體即ち子實を生ずる所にてマツダケ、シヒタケ等の蓋に相當する部分なり而して其結實の時期に至れば内部の有色菌絲は屢々分枝して夥多の小枝を生ず各小枝の先端は無色にして互に縱列するに至る此縱列菌絲の中に更に伸長して其先端一方に向て少しく彎曲するものあり是所謂擔子嚢にして其弓形に突出したる表面に各四個の針形の突起を生ず此突起の頭部漸次に膨脹して各一個の子實を形成す斯くして一個の擔子嚢に各四個の子實を生ずるに至るなり成熟したる子實は擔子嚢を離脱し好時期に遭遇すれば直に發芽し寄家の體内に侵入し得べき無色菌絲を發生す

一病菌の菌絲塊　被害甚しき患部には五釐乃至一分位の小塊を夥多發生するとあり此は病菌の菌絲塊にして其内部は白色外部は暗紫褐色の菌絲を以て成る而して菌絲塊は寄家の養分缺亡し菌體の發育旺ならざる時に發生し其中に多量の養分を貯藏して暫時休眠の後ち好時期に至れば其貯藏養分を消費して新に菌絲を發生し再び營養を始むると彼のヂャガタライモの塊莖に均しき作用を爲すなり

一被害組織　被害株の患部組織の被害最も甚しきは新成層にして木髓及外皮等は其害少なし而して被害組織の細胞は悉く變色して暗褐色を呈し甚しきに至れば細胞膜腐蝕缺損す尙ほ害菌の菌絲の存在

する所には硝酸石灰の結晶體の集合に由て成れる凡そ一二釐位の細粒を夥多生ず是害菌の營養に際し排泄せる物質の集合體なり

（以下續出）

◎蠶種密藏試驗

大日本蠶絲會員　農學士　本多岩次郎

編者曰く蠶種貯藏に關しては會員中より時々質問を發せられ其都度技藝委員の答案を得て之を會報に掲載せるが今や漸く蠶種貯藏季節に際會する折柄なれば西ヶ原蠶業講習場に於て連年繼續せらるゝ蠶種密藏試驗の結果を掲げて當業者諸君の參考に資す（本文に本年とあるは二十八年を云ふ）

冬期中蠶種を簡便に貯藏するの良法を求めんが爲め蠶卵呼吸に要する空氣の量を測定し百蛾分の蠶卵に對して一「リートル」即ち我五合五勺の割合を以て空氣を供給せば冬期中蠶種を密閉するも敢て害なきなりとは明治廿三年以來學理上の試驗より得たる成蹟にして廿五年より此割合を以て實際蠶種の密藏を實行したりしに廿五廿六の兩年は密閉以外の關係之に適合せざる所ありて遂に充分なる試驗を全ふするを得ざりしが廿七年度に於ては同密閉を施し更に飼育及成繭上毫も障害を見ざるのみならず或は反て優れるの成蹟を得たり然れども此成蹟たる廿五年以來初めて得たるものなるを以て本年再び之が試驗を行ひ以て其正確なるを證し併せて此理に由りて蠶種密藏の良方法を探知せんと欲し數種の試驗を行へり其結果左の如し但本成蹟は複雜を避けんが爲め第一前年試驗の成蹟を確め第二密藏法の試驗に就き各別に其手續及結果を掲ぐるなり

其一　密藏の害否試驗

試驗の方法及使用の玻璃壜は昨年と敢て異ることなく各壜の容積五百六十立方「センチメートル」（我三合〇八）にして五十六蛾分の小石丸種蠶卵を入れて密閉せり時に廿七年十二月十八日とす而して其種別左の如し

甲　單に密閉したるもの（生石灰等を用ゐず）

乙　空氣一「リートル」に對し生石灰二「グラム」を入れたるもの

丙　仝半「グラム」を入れたるもの

丁　標準の爲め普通の貯藏法を施したるもの

右四種は共に「ウエルメン」氏發明の貯藏箱内に貯へ冬期中の經過を終り本年四月十三日に至り孵れも貯藏器より取り出し催青室に移せり以後同一の方法を以て其催青を促したりしに丁は廿四日に戰色廿六日に至り發生せり又甲乙丙は孵れも丁より後るゝこと一日なり今各種日々發蟻の有標を表記せば左の如し但表中の數は其孵化頭數を示すものなり

月日 ＼ 種別	甲	乙	丙	丁
四月廿六日	〇	〇	〇	一五二

四月廿七日		二五四		六四		一〇〇	四、九七二
仝　廿八日		二〇、五七四		二一、四七二		二一、八三二	一八、五七四
仝　廿九日		六、一五八		六、二九〇		四、八一八	三一八
仝　三十日		一四八		一〇六		一〇八	六〇
五月一日		二八		六四		四四	六
仝　二日		四		二六		八	〇
仝　三日		〇		八		二	〇

密閉貯藏のものは前試驗にありても其發生期少しく後れたるが故に本年度にありては是に意を注ぎて四月八日より壜口を開き外氣を導きたりしも冬期間温氣に感ずること普通貯藏のものに比して少きが故に本年度に於ても發生稍や遲れり然れども孵化の割合は反て良好なりき左表に就きて之を知るべし

表は各種蠶卵に就き孵化せしものと孵化せざるものとの卵數を調査せしものなり

種別＼目標	孵化せしもの	孵化せざるもの	計
甲	二七、一六六	一、六七八	二八、八四四
乙	二八、〇三〇	一、六二〇	二九、六五〇
丙	二六、九一二	二、七一四	二九、六二六
丁	二四、〇八二	二、四三二	二六、五一四

右は各卵子の實際孵化せしものと否らざるものとを示したるものなれども今左に交互の比較を見易からしめんが爲め卵數一萬顆に改算して其割合を擧げん

種別＼目標	孵化せしもの	孵化せざるもの
甲	九、三四五	六五五
乙	九、四五五	五四五
丙	九、〇八四	九一六
丁	九、〇五四	九四六

右の表に由りて見るときは蠶卵孵化の割合は密閉貯藏のもの反て普通のものに優れるが如し然れども前年度の試驗の成蹟に據れば單に密閉貯藏のものは普通貯藏のものと大差なしと雖も生石灰を入れたるものは他に比して孵化の割合少かりし而して前後に試驗の成蹟を案ずるに密閉貯藏せるものは普通貯藏のものに比して優ることあるも劣ることなきが如く生石灰を入れて密閉せるものは單に密閉せるものに比して較や劣れるが如し加ふるに前試驗の成蹟に據るに生石灰を入れ密藏したるものは單に密藏せるものに比して其結果良好ならざるが故に本年度にありては石灰を入れて密閉したる蠶種の飼育を廢して甲及丁の二種に就き各蟻量五分づゝを收めて之を飼育し以て蠶種發育の狀況及收繭の多寡を檢したるに其全成蹟左の如し

右二種共に四月廿八日を以て掃下し爾後同一の方法を以て飼育せしに各齡に於ける斷飼（たんし）蛻蛻（ぜいぜい）共に齊一

にして毫も遲速なく發育佳良にして更に缺點を見ず二眠飼食後九回給桑の後各種に就き最大なるものと最小なるものと各十頭を撰み其重量を檢したるに甲丁共に其大なるものは一分四厘其小なるものは七厘五毛ありて共に優劣あることなし然るに飼育中に於ける各種蠶兒の減數を調査せしもの左の如し

種別 / 目標	甲 現在蠶數	甲 掃立よりの減數	丁 現在蠶數	丁 掃立よりの減數
掃立當日（蟻數）	五、九九三	—	五、九九三	—
二齡二日目	四、五九六	一、三九七	四、二三一	一、七六二
四齡眠除の際	四、三一五	一、六七八	三、九六八	二、〇二五
上簇の際	四、〇八〇	一、九一三	三、七六〇	二、二三三

即ち減蠶數は丁號反て多くして飼育中の全減數は甲號にありては三割一分九厘なるも丁號は三割七分四厘の多きに達せり而して上簇後簇内斃蠶遺失蠶及成繭蠶數を調査せしに遺失蠶は孰れも大差なきに斃蠶は甲號に多く總て成繭蠶數は亦甲號の多きこと三百拾頭とす詳細は左表の如し

種別 / 目標	上簇蠶數	簇内斃蠶數	上簇後遺失蠶數	成繭蠶數
甲	四、〇八〇	一八七	一七七	三、五八三
丁	三、七六〇	一一七	一七九	三、八九三

是に由りて見るときは密閉貯藏を行ひたるものは普通貯藏のものに比すれば下蟻より上簇に至るの間に於て減蠶の數少く從て成繭蠶數多きこと前試驗の成蹟と異なることなし

甲丁二種共に五月卅一日に至り飼育日數孰れも三十三日を以て悉く上簇し終れり而して結繭後收繭を調査せしに左の如し

種別 / 目標	容量 上繭	容量 中繭	容量 下繭	容量 同功繭	容量 合計	重量 上繭	重量 中繭	重量 下繭	重量 同功繭	重量 合計
甲	九、一五	一〇〇	五〇	一四五	二三〇	九四八五	一〇八三	五三〇	一七二九	二八二九
丁	八七〇	七〇	四五	二三五	一一二五	九三六三	六八〇	四八一	一三八五	一一八九九

即ち收繭上より右二種の優劣を論ずるときは前年試驗の成蹟と等しく密閉貯藏の甲號を以て其優れるものと爲すと雖も上繭一升の重量は前試驗の成蹟に反し甲號は丁號より輕きこと實に左の如し

甲　上繭一升の重量　百〇三匁六分

丁　仝　百〇七匁六分

然るに右二種上繭中より最大最小及中位のもの各二十頭を取り繭層を切りて蛹體及脱皮を除去し全絲量を測りたる中形のものは互に相等しく大形は丁號重く小形は甲號重かりし而して其平均量に至りては甲號の重きこと殆んど一割に垂んとす左表に就きて其詳細を知るべし

種別＼目標	大形	中形	小形	平均
甲	一、三九(匁)	一、四〇(匁)	一、三〇(匁)	一、三六(匁)
丁	一、四一	一、四〇	一、〇〇	一、二七

尙ほ生繭の齊否如何を調査せんが爲め上繭中より最大及最小の繭各百顆づゝを撰別(えりわけ)し之が長幅を調査せしもの左の如し

種別＼目標	大形 長	大形 幅	小形 長	小形 幅	較差 長	較差 幅
甲	一〇、二三(R)	五、五六(R)	八、八五(R)	五、〇四(R)	一、三八(R)	〇、五二(R)
丁	九、九九	五、五〇	八、七九	四、六四	一、二〇	〇、八六

此表に由りて見るときは長さの較差は甲號大なるも幅に至りては反て甚だ小なるが故に互に大差なしと雖も概して云ふときは丁號は比較上繭形の不齊たるを免かれざるなり又各種上繭中眞好なる繭五顆を撰み之を繰絲して其絲質を檢したるに左の如し

種別＼目標	一顆の絲長 最長	一顆の絲長 最短	五顆平均一顆 絲長	五顆平均一顆 絲量	四百回に對する絲量	切斷	類節	解舒	五顆の層絲量
甲	五七五(間)	四七〇(間)	五一六(間)	三、七〇(デニール)	二、七一(デニール)	〇	〇	上	〇、七五(デニール)
丁	六三〇	四七〇	五六〇	三、八八	二、八一	〇	〇	上	〇、八〇

此絲質試驗に據るときは丁號は甲號に比して少しく絲量多きの優れるあるも敢て大差あることなきなり以上各項に就きて見るときは此全成蹟たる昨年試驗の成蹟に對するに時に或は多少の差あるも其大體に至りては毫も異なることなくして密閉貯藏照のものは更に普通貯藏のものに讓ることなく却て其結果佳良なるが如し故に冬期中蠶種を密閉して貯藏するも百蛾の產附せる蠶卵に對して空氣一「リートル」即ち我五合五勺を給與せば決して障害なきことを確證するを得たり故に爾後益々蠶種密藏の方法を講究するときは庶幾(ちかく)くば當業者簡便に且つ安全に蠶種を貯藏するを得ん

其二　密藏方法試驗

此試驗に用ゐたる蠶種は前項試驗と等しく小石丸にして其密藏する器も亦容積五百六十五方「センチメートル」(我三合〇八)を有する玻璃壜にして內に五十六蛾分の蠶卵を貯藏すること總て前項のものに異なることなし而して此等密藏玻璃壜は昨廿七年十二月十八日に於て左の三種の方法に據りて貯藏せり

戊　地下十「センチメートル」即ち二尺六寸四分の深さに埋めたるもの

己　仝

庚　籾糠內に納めたるもの

右は孰れも其密藏壜內には生石灰を入れずして戊は普通の期日に取り出すべきもの己及庚は其後三週

間前後を經て取り出すべきものなり而して戊及巳は毫も被覆を要せずして直接に土中に埋め庚は長さ二尺幅一尺五寸深さ一尺八寸の箱内中央に安置し其周圍には籾糠を填充せり

斯くて戊は四月九日に至り地中より掘り出し其儘普通の貯藏器に入れ同十三日催青室に移せり巳及庚は五月四日各貯藏所より取り出し催青せしめたり而るに戊は四月廿八日に巳は五月十一日に庚は仝十三日に至り孰れも發蟻せり今其發蟻の模樣を表記せば左の如し

月日	戊	月日	巳	庚
四月廿八日	八〇二	五月十一日	九〇	—
仝 廿九日	一六、六四八	仝 十二日	一、四七八	—
仝 三十日	九、〇五六	仝 十三日	一、〇四二	一、九五三
五月一日	三八四	仝 十四日	翌日分と合す	翌日分と合す
仝 二日	四〇二	仝 十五日	一七、五七二	二六、六六八
仝 三日	一〇六	仝 十六日	二、六二〇	二〇八
仝 四日	一六	仝 十七日	二四六	—

尚ほ各種の卵粒に就き孵化せしものと孵化せざるものとを調査し之を卵粒一萬顆に改算して表記せば左の如し

種別＼目標	孵化せしもの	孵化せざるもの
戊	八、八二七	一、一七三
巳	七、六六二	二、三三八
庚	九、五〇九	四九一

即ち土中に埋藏せる戊巳兩號共其孵化の割合は之を普通貯藏のものに比すれば遙に劣れり殊に巳號に於て甚しと爲す是れ恐くは密藏壕を閉づるに塞子栓を以てしたるが故に土中の水濕之に浸潤し以て害を蠶卵に及ぼしたるものならん然るに獨り庚號は發生齊一にして加ふるに孵化の割合却て普通のものに優れり

斯くて戊號は四月廿九日巳及庚は五月十五日に至り孰れも掃立前項標準(丁號)と同じ方法を以て飼育したりしが巳及庚は掃立時期非常に遲れ桑葉既に硬化したるが故に發育充分ならず斃蠶多く生じ爲に比較を取るに困難なるを以て獨り戊號のみの試驗飼育に供せり而るに戊號發育の景況一二齡中は丁號と毫も差異あらざりしが三齡に至り少しく不齊となり遲蠶を發生し漸次其發育不良なりし二眠餉食後九回給桑の後最大なるものと最小なるものと各十頭を撰み其重量を檢したるに其大なるものは一分三厘五毛其小なるものは六厘五毛ありて丁號に比すれば大體の重量に於て輕く且つ不齊なりき而して又飼育中蠶兒の減數を調査せしに左の如し

種別＼目標	現在蠶數	掃立よりの減數
掃立當日蟻數	五、九九三	—

二齢二日目	四、一八一	一、八一二
上簇の際	三、五九五	二、三九八

即ち飼育中の全減數は四割にして丁號より多きと二分六厘なりとす且つ上簇後に於ける彼我の優劣を比較するに戊號の及ばざること又左表の如し

上簇蠶數	簇内斃蠶數	上簇後遺失蠶數	成繭蠶數
三、五九五	三、二六	一九三	三、二六九

是に由りて之を見れば戊號は飼育中多數の減蠶を生ずるのみならず上簇後に於ても亦蠶數を減じ從て成繭蠶も丁號に比し少なりとす飼育日數は丁號と等しく三十三日を以て五月一日上簇を終り結繭後其收繭を調査せしに左表の如し

種別	目標	容量	重量
上繭		六五、〇合	六五〇、二匁
中繭		一二、五	一二一、六
下繭		六、五	六九、六
同功繭		八、〇	八五、〇
合計		九二、〇	九二六、四

收繭の量右の如く豐ならずして上繭一升の重量も僅に百匁に過ぎざるなり

以上の全成蹟を案ずるに土中に埋藏せるものは其成蹟頗良好ならざるが如しと雖も不良の結果を呈したるものは濕氣を防遏するの注意周到ならざるに因りしものゝ如し尚ほ次年の試驗を俟て確報する所あらんとす

●寄書

●上簇の早晩に就て

大日本蠶絲會員　松下憲三朗

養蠶に從事するもの人手を節約するに過ぎ上簇の際好時期を失し遂に過熟に至らしめ貴重の絹絲を徒吐し其極繭を結ばざるに終らしめ又多少の未熟蠶あるも敢て意に介せず陸續として上簇せしむるものあり此等は實々たる端業の如しと雖も折角丹精して飼ひ上げ今や成果を見んとするの曉に至り假令繭一粒たりとも絲一縷たりとも空しく之を失ふは實業の本意にあらず余本年本郡(京都府丹後國與謝郡)養蠶傳習所にありしとき上簇早晩の關係を試みんと欲し又昔五齢六日目同七日目同八日目のもの各二十頭づゝ上簇せしめ以て之を試驗せり左に其成蹟を掲ぐ

未熟蠶(五齢六日目のものにして未だ熟せざるもの)　二十頭

稍熟蠶(同七日目のものにして胸部の一部分稍や半透明となり未だ二三回の給桑をなさざれば熟せざるもの)　二十頭

熟　蠶（同八日目のものにして適度に熟したるもの）　二十頭
過熟蠶（内身悉く透明となりし後尚ほ數時間を放置し自體稍や縮小せしもの）　二十頭

以上各其簇を異にして結繭に至らしめしに其適度に熟したる蠶は上簇後直ちに繭を掛け始め次で稍熟蠶、過熟蠶共に結繭を始めたり未熟蠶は永く簇中を徘徊し或は簇外に出で墜落して繭を營まざること三日餘其大部分は遺失し纔かに繭を營めり過熟蠶は勢力大に衰へ妄りに絹絲を吐出し俗に曰ふ「ウワイキ」のみを吐きて中に蛹化するものあり又遺失せしものあり其結繭數は左の如し

	結繭數（二十箇の内）
未熟蠶	六　箇
稍熟蠶	十九箇
熟　蠶	二十箇
過熟蠶	十三箇

各簇成繭平均十顆の衡量を檢せしに左の如し

	繭量目（十箇に就て）
未熟蠶	二匁八分
稍熟蠶	三匁六分
熟　蠶	四匁四分
過熟蠶	三匁五分

又各簇成繭三箇に付繭質を檢査せり其成蹟（三箇平均）は左の如し

	絲長	四百回に對する纖度	切斷	類節	解舒
未熟蠶	二一二	二、一	七、六	三、三	不可
稍熟蠶	五三〇	二、七	一、六	一、三	可
熟　蠶	五八八	二、九	〇、	〇、六	可
過熟蠶	四七二	二、九	一、三	一、三	可

以上の成蹟に據りて之を見れば上簇の時期宜しきに投ずると否とは成繭及絲量に容易ならざる關係を及ぼすや明かなり又未熟の蠶兒を强て蛻せしむるは製種家に非常の障害を與ふ即ち製種の目的たる蠶種は是れが爲め幾分か虛弱の遺傳を受くるは免かる能はず凡そ虛弱性の蠶種は如何に其飼育に注意するも一朝氣候の劇變に逢へば之に堪ふる能はずして不測の失敗を招くことあるは屢次見る所なり故に製種家は勿論養蠶家と雖も總て斯業に從事するものは豫め十分の人手を準備し置き上簇の時期に際しては聊か過失なからしめんことを要す世の養蠶家往々養蠶費用の大部分を占むる桑葉の濫費を傍觀し却て瑣々たる人夫の節減に過ぎて爲めに失敗するものなきにあらず豈戒めざるべけんや

●遠州地方の夏蠶種製造業者に告ぐ

大日本蠶絲會員　桔川　熊重

日本の蠶業は日に月に盛大に至れるが如しと雖も是れ畢竟飼育者多くして只產額を增加せしめたるに過ぎずして蠶種一枚より得る所は決して昔日に大差あることなしされば蠶種製造家たるものは精良健全なる蠶種を供給して養蠶家に圓滿なる結果を得せしめ以て國家の經濟に裨補するの決心なかるべからず然らざれば事業の盛大は決して期すべからざるなり抑も蠶より得る所の生絲は良價を有し歐米諸國に向つての輸出品なれば收獲の好結果を得るときは普通農產物に比較して其利益は遙かに多しと雖も若し因作なるときは數旬の勞働と多額の桑葉とを併せて水泡に歸せし其損害著るしきものなれば今日の夏秋蠶飼育に對し人をして山師の事業なりとの感を懷かしむるも亦宜ならずや然りと雖も蠶業は眞に然る業にあらずして完全安固なる農學の一科なり彼の耕地に種藝して天然に任ずる作物は素より因獻を免れざるものなりと雖も人智の發達に從ひ之を未然に豫防し以て其害を免るゝことあるに至れ

り然るを況んや養蠶の如き室内に飼育するものにして被害の豫防法あるは言を待たざるなり然るに蠶業に豐凶あるは其原因ありて然るなり其原因種々ありと雖も大別すれば即ち蠶種の精粗飼育の巧拙蠶室の良否等に外ならず此三大原因の内肉眼鑑定及び手練を以て識別するを得ざるは蠶種其物にあり本來蠶業なるものは繭を取りて利益を收むるを以て目的とす其順序を約言すれば桑を以て蠶を養ひ繭を取りて絲を製し以て需用に供するに在りて其原料即ち桑葉をして絹絲に變化せしむるは蠶の天性なり而して此天性を害するものは病毒なり然るを此病毒を豫防し以て天性を完せしむるは人工にして當業者其人に存す夫の微粒子病毒の如きは顯微鏡を以て檢査し得べしと雖も他の遺傳性即ち虚弱質等は之を調査するの方法未だ發明あらず是れ現今蠶種製造業者間に粗製濫造の弊ある所以にして僥倖にも顯微鏡の檢査に合格するときは其蠶種の如何に虚弱なるに拘はらず滑舌に任せて自ら完全無缺の良種なりと唱へ販賣するもの尠しとせず此等は實に詐僞の擧動と謂はざるを得ず我遠州の如き秋蠶種本場の稱あり此名譽なる稱を得るに至れるや容易の事にあらず然るに今當業者間の現狀を察するときは此名譽なる本場の稱は我遠州を辭して他の地方に移らざるを保し難し余輩は偏に憂慮して止まざるなり何を以てか之を言ふ曰く近來秋蠶種の需用は極めて多く販路益す增進延長するの秋に當つて該業に精しからざるもの陸續として製造の官許を受け東奔西走未熟の製種者に托して種繭の良否を問はず繭價及幾分の勞費を與へ粗濫の製造を爲さしめ之に己れの氏名を記して他方へ輸出販賣するもの頗る多し斯の如き蠶種を用ひて飼育するときは不結果を來し大損害を招くは勿論にして必ず世人の排斥を被り數年を出でずして事業の衰退を致すや明々白々なりとす是れ余輩が當業者諸君に向つて猛省を乞はんと欲する所なり

●統計

◎二十九年八月中生絲屑物輸出數量元價收稅統計（大日本外國貿易月表に據る）

種目	數量	元價	收稅
生絲	一五〇、七四八斤	一、〇七一、六九六・五七〇円	三五、六一四・三一五円
煑絲	一八、四六二斤	一五、六〇〇・〇〇〇	四三六・一六八
屑絲	五九、九七四斤	二七、〇九六・二二〇	四二五・〇七五
計	二二九、一八四斤	一、一一四、三九二・七九〇	三六、四七五・五五八

◎二十九年八月中絹布類輸出數量元價統計（同上）

種目	數量	元價
縮緬	三一一反	二、五一一・四三〇円
羽二重	三四、五二〇反	四八七、九八八・八一〇
他の諸絹布類	二、三三八反	一、四、三〇七・〇三〇
絹綿布類	四一八反	八五六・〇〇〇
絹手巾	一三二、〇七六打	三七四、二八三・一一〇

絹製品類計	三七、五八七反 一三二、〇七六打	六二、一六七・九三〇 一、六四六、四一三・四九〇

◎全世界生絲の產額

全世界に於ける生絲の產額は明治二十一年より二十三年迄は每年平均千百七十五萬五千瓩にして其後の產額は左の如し

年代	數量	年代	數量
明治二十四年	一二、六一九、〇〇〇瓩	同二十七年	一三、七五一、〇〇〇瓩
同 二十五年	一二、九八六、〇〇〇	同二十八年	一六、〇二三、〇〇〇
同 二十六年	一五、〇三四、〇〇〇		

◎世界各國生絲產出比例

近着のドライ、グッヅ、エコノミストの報ずる所に據れば千八百九十三年（明治二十六年）より千八百九十八年（明治二十八年）に至る三年間平均世界各國の生絲產出は左の如し

支那	三六・七六	レヴァンド及コーカサス	八・一七
伊國（四班牙及墺匈國を含む）	二六・二七	佛國	五・六〇
日本	二一・五〇	東印度	一・七〇

◎九月中橫濱生絲出入及取引統計

橫濱蠶絲業探訪同盟會の調査に據れば九月中同港に於ける生絲の出入及取引高は左の如し

	入荷	賣込	地方行
器械	八、七四五俵	五、一五二・〇俵	一、二一五・五俵
座繰	二、五七八	—	—
折返	五三六	一、一八五・五	一四三・〇
提絲	二六	二八三・五	二〇・〇
演付	三	—	—
奥仙	二	—	二・〇
取合	一一	—	一一・〇
合計	一一、九〇一	六、六二一・〇	一、三五一・五

●問答

◎蠶卵貯藏に就て質問

大日本蠶絲會員　不動勝二郎

蠶卵を尋常の室中に掛け放しに爲し置くときは發生後蠶兒に有害なりとの說あり果して然る理由ありや若し之れありとすれば其原因及結果の詳細を問ふ

答　大日本蠶絲會技藝委員　練木喜三

蠶種を貯ふるに尋常の室内に掛け置くが如きは時に多少被害の迹なきを保せず平年すら尚ほ之を貯藏の周到なるものに比すれば其發生較や早く而も多少の不整を見る況や不順の年をや甚だしければ則ち不時戰色し或は發生するに至るものあるを觀て知るべし

原因他なし冬季以降不時に催ふす寒暖を避くるに由なき是なり現に去る二十二年の如き十一月中室外の温午前六時に當り四十度以下に降れること八日にして後ち俄然平均五十五度以上に昇れること亦八日に及び續々戰色又は發生の不幸を觀たるもの尠からざりき又同二十三年の一月中試みに高度の温を加へ（二月二十三日に至り平均七十五度の温を以て催青し其結果如何を驗せしに曩に平均六十八度九の温に感ぜしめたること五晝夜なりしものは十一日目にして三十六頭十七日目（發生の初日より第七日目）にして十分の五發生し發生の初日より第三日目にして已に二頭の斃蠶を生じたれども貯藏周到なりし者は十五日目にして四頭二十一日目（發生の初日より第七日目）にして十分の九發生し發生の初日より五日目にして僅かに一頭の斃蠶を出せるのみなりき蠶種の貯藏決して忽かせにすべからず

大日本蠶絲會員　五十嵐惇爾

◎微粒子毒撲滅に就きて質問

微粒子毒撲滅法として養蠶器具を華氏二百度内外の熱度にて蒸氣を以て三時間位蒸熱せば其効ありや若し蒸氣に死するものとせば其熱度及時間等前記の如くにて充分なるや

答

昨今兩年の試驗の結果に據れば蠶莚を洗滌して後ち直ちに殺蛹器中に懸け華氏の百七十度の温を以て熱すること二時間にして遺毒全く殺滅の効を奏したり蒸氣は未だ試みざる所なるが惟ふに乾燥せるものを其儘消毒せんとする場合にありては同温を以てするも其効驗一層著しきものあらん

大日本蠶絲會員　安原蠶司

◎殺蛹器械に付質問

殺蛹に高熱を與へ一回にして無水ならしめ貯藏すれば繰絲光澤共に宜しとの事なれども直接に滿に蒸汽を觸れしめず熱度のみ與ふる輕便なる器械の裝置を問ふ　但原種十枚内外の養蠶家に用ゐ得べき品に就て

附けて問ふ御法川直三郎氏の三斗入熱殺器は有効なりや否や

答

大日本蠶絲會技藝委員　高橋信貞

原種十枚内外の養蠶家が用ゐ得べきものとせば至小なるものなり質問の如く直接に滿に蒸汽を觸れしめず熱氣のみ與ふる方法は頗る良し然れども輕便とか簡便とか申すものには完備せるものなし寧ろ地方の養蠶家協同して其規模を大にし完全なるものを作られむことを望む若し已むなくば大日本蠶絲會報第三十三號質問欄内に掲載しある圖解に參照し火熱によりて殺蛹を施されなば可なり

●外報

◎伊國生絲産出額及日伊商業媒誘

伊國生絲産出額並に日伊商業媒誘の件に附きヲエノーヴァ駐在帝國名譽領事シェヴァリユ、エトアルド、カナリ氏より本年七月十四日附を以て外務省へ左の

如く報告ありたり

本年及前二箇年の伊國生絲產出額は左表に示すが如く即ち本年の產出額は昨年より減少し之を一昨年に比較すれば更に一層の減少を加ふ其然る所以は數十日間の旱魃ありたるため桑葉の被害甚しかりしに源因するものなり

州名	市場數	二十九年	二十八年	二十七年
ピヘモン	二五	四、三八七、一九五	五、六三二、五八〇	六、一六九、八六七
ロンバルジー	一〇	一、七四八、八二六	一、六九九、六一一	一、九七〇、八一〇
ウエニース	二	三五八、〇六五	二七八、九二五	三三一、八八一
エミグー	一六	二、〇八〇、五三九	二、〇一八、七五七	一、九八四、三二二
マルケス、サンアリツ	一二	一、〇一〇、二五二	一、〇七二、七一一	一、〇一一、七四五
トスカンヌ	九	六三〇、七三二	六二一、七九二	七〇五、六一五
合計	七四	一〇、二一五、六〇九	一一、三二四、三七六	一二、一七四、二四〇

日、伊兩國間の商業擴張に附きては先般來專ら力を盡し當國商工業者數名に協議せしに大概同意を表し其内最も熱心なる者もあれば遠からず日、伊兩國商工業者間に交通の連絡を通ずるを得るは本官の確信する所にして此目的を達せんため自ら兵庫及横濱の商業家と通信の途を開けり然るに未だ伊國商業社會には日本の事情に曉通する者なく隨て如何なる商品が日本に於て販路を得べきや絶て知る者なし爲に日本へ輸出を試んと欲する者あらざることを確認せらるゝに因り退て伊太利文を以て日本統計表を編纂し日本の輸出入並に政體等に關する事を普く伊國人に知らしめんと欲す

○人造絹絲現況

人造絹絲の現況に關し倫敦駐在帝國一等領事林權助氏より去る八月十日附を以て外務省へ左の如く報告ありたり

人造絹絲の發明ありたるは既に久しき以前の事なれども其結果に不十分の廉多きを以て現今佛國其他に一二箇所の製造所あるに止り未だ十分實業上の價値を生ずるに至らず然るに本年五月當國マンチエスタルに於て其製造會社の設立を計畫する者あり殊に當時タイムス紙上に同製造法の甚だ完備せる旨を記載せしを以て一時世人の注意を惹き又本邦新聞紙中には右記事を譯載し人造絹絲は現今既に蠶絲の勁敵として顯るゝに至りたるが如く報道せるものあるに至れり然れども右は大に實際の事實を誇張したるものにして此度マンチエスタルに新設せし會社に於て使用せんとする器械は六七年前佛國に於てシヤルドンテーの發明せるものに外ならず同製法の不完全なることに就きては既に當時世人の十分に研究せる所にして其後幾分の改良を經たれども其彈力は猶ほ蠶絲の三分の二、强力は六分の一に過ぎず且つ其色絲は褪色し易く又之を揉むときは時として粉末に化することあるのみならず極て燃燒し易き性質を有するを以て到底之を專用して織物と爲すを得ず現に佛國ユニヴエルセル會社に於ては此製法に依り既に二年間同絲の製造に從事せるも其使途は僅に襟飾の如きもの又は諸種の不正絹織物の緯絲に混じて使用するに過ぎず而して今回當國にて新設せんとする會社は即ち此專賣權を買受けんとするものなれば其價値は現今佛國にあるものと一點の差異なしとす故に右人造絹絲は今後或は諸種の改良を加へ遂に蠶絲の一大勁敵と爲ることなきを期せざれども現今の處にては未だ本邦當業者の利害に關する程の發達を爲したるものにあらざるなり

○佛國蠶業奬勵金に關する意見

佛國に於ける蠶業奬勵金に關する意見に附き里昂駐在帝

國二等領事山田忠澄氏より本年八月七日附を以て外務省へ左の如く報告ありたり

歳計豫算調査委員會は本年七月中商務省豫算定額の第四十三項製絲業奬勵金の討査を了せり今茲に其梗概を叙せんに調査報告委員は蠶業奬勵金は年一年に益ゝ増額の傾向あるを以て宜しく之が減額の方策を講ぜざるべからざるとを問陳せり又現任商務卿は千八百九十二年七月十三日法律を以て定めたる該奬勵金六箇年の支給年限を延期し以て其定額を三百萬法に制限せんとの意見を陳し併て其法案を議院開會の日を俟ちて提出すべき旨を述べたり依て該委員會は商務卿の意見に應じ奬勵金記入額三百三十萬法の内より三十萬法を減ぜり而して商務卿が奬勵金定額制限案を議會に提出すべしとの陳述を記錄に明示せり

又佛國南部の蠶業地方選出元老院議員及代議士は本年七月中元老院の關税調査委員會議堂に會議を開けり其目的は蠶業奬勵金支給年限滿期後定額制限又は全廢の場合に當り佛國蠶業の利益を保護するに適切なる方策を豫め協議するに在り今茲に協議の顚末を略記せんに論者の甲は協心同力以て奬勵金の維持を謀らざるべからずと説き乙は奬勵金の如きは蠶業保護の効力尚は不充分なり加之歳計豫算節減派は今日奬勵金定額に制限を設けんとの意向あるに於ては斷然外國繭及生絲に對し撚絲及絹布と一般關税を設くるの得策なるを論じたるが終に衆論關税策に歸し之が遂行を謀ることに全會一致し而して各自選擧者の意見を諮問したる上議院の開會を俟ちて協同事に從ふべき旨を議決せりと雖とも是れ南部蠶業地方選出議員の間に於ける議決たるに過ぎず茲に正反對の利益を有する製絹地なる里昂選出議員の在るあり外國繭及生絲課税説は既に先年議會に於て數回討論の末終に南方選出議員は里昂選出議員に勝を制せられたるにも拘らず南方議員か再び本問題を以て議場に論戰を開かんとする不屈不撓の勇氣は寔に嘉すべしと雖も本件の如きは直接我蠶絲貿易に至大の關係を有する問題にして我國は當里昂と利害を共にする所なれば本件の成行に關しては向後とも勉て注意報告に怠らざるべし

◎廣東蠶絲商況

本年八月中廣東蠶絲商況に附き在香港帝國領事館事務代理領事官補清水精三郎氏より去月九日附を以て外務省へ左の如く報告ありたり

當月中廣東に於ける絲況を考査するに上旬にありては第四期收獲天候悪しかりしため或る養蠶地方其害を被り四割方不作なりとの報あり尤も今日まで市場に到着せし新荷を檢するに絲質は滿足なり只豫期したる如く原繭の價騰貴し居るが故に第四期收獲の製絲は第三期の分より毎擔約三十弗乃至五十弗方高直なるべしとの見込なり

中下旬にありては第四期收獲繭の高直なるに依り製絲家は力の及ぶ限り絲價を高めんと務めつゝありしに爲換相場の下落は取引を容易ならしめ外國向に對して毎擔十弗乃至十五弗方の騰貴を認むるに至れり

左に各種絲につき七月三十日以降毎二週間の商況を示さん

八月十二日に終る二週間

七里絲　引續孟買向の注文活潑なり

坐繰　取引更になく直段異動なし

機械絲　本期終末前數日間活潑なる取引あり里昂よりの注文も增加したり直段は第四期收獲絲の高直なるべきを見込み益〻手强し

八月二十六日に終る二週間

七里絲　荷主より每擔十弗方增直を申出で歐洲向取引なし

坐　繰　本期の初に於て第二號每俵四百五十弗の割を以て十五俵程取引ありたり第一號は能號よりも割高を唱へ注文至て少し

機械絲　引續き相應に里昂向の注文あり左に本月中の相塲表及賣買出來高表を掲げて參考に資す

二十九年八月中七里絲及機械絲相塲表(每擔)

七里絲

月日						
八月十二日	一番 四三〇弗	二番 四一五弗	三番 四〇〇弗	四番 三八五弗	四番半 三八〇弗	五番 三七〇弗
八月二十六日	同 四四〇	同 四二五	同 四一〇	同 三九五	同 三九〇	同 三八〇

器械絲

月日	等級		直段	等級		直段
八月十二日	優等一番	[illegible]	五九〇弗—五八〇弗	優等一番	[illegible]	五九〇弗—五八〇弗
同	同二番	[illegible]	五九〇—五八〇	同二番	[illegible]	五七五—五八五
同	同二番	[illegible]	五六〇	同二番	[illegible]	五五〇—五六〇
同	同三番	[illegible]	四八〇—四六五	同三番	[illegible]	四八〇—四六五
八月二十六日	同一番	[illegible]	六〇〇—五九〇	同一番	[illegible]	六〇〇—五九〇
同	同二番	[illegible]	六〇〇—五九五	同二番	[illegible]	五八五—五八〇
同	同二番	[illegible]	五七〇	同二番	[illegible]	五六五—五五五
同	同三番	[illegible]	四九五—四七五	同三番	[illegible]	四九五—四七五

二十九年八月中每二週間賣買出來高一覽表

本年月日	歐洲向	米國向	孟買向	合計
八月十二日まで	一、二〇〇俵	一〇〇俵	二〇〇俵 一〇〇增	一、五〇〇俵 一〇〇增
八月二十六日まで	一、一〇〇	五〇	二三〇 一五〇	一、三八〇 一五〇
計	二、三〇〇	一五〇	四三〇 二五〇	二、八八〇 二五〇
前年月日				
八月十二日まで	一、五〇〇俵	二五〇俵	二三〇俵 五〇增	一、九八〇俵 五〇增
八月二十六日まで	一、二〇〇	五〇〇	三〇〇 一五〇	二、〇〇〇 一五〇
計	二、七〇〇	七五〇	五三〇 二〇〇	三、九八〇 二〇〇
增減	本年減 四〇〇	本年減 六〇〇	本年減 一〇〇俵 本年增 五〇增	本年增 一、〇〇〇俵 本年減 五〇增

◎佛國生繭收穫高

里昂蠶絲商組合の報ずる所なりとして里昂駐在帝國二等領事山田忠澄氏より本年八月七日附外務省への報告に據れば同國養蠶村區六百九十五箇所に於ける本年收穫生繭の秤定量は五百五十一萬四千三百一基なり之を縣別すれば左の如し

縣名	養蠶村區の數	二十八年收穫高(單位基)	二十九年收穫高(單位基)
ガール	一八八	一、七〇二、三四三	一、七三一、〇二一
アルデーシュ	一一四	一、四四三、八〇七	一、八三四、七七二
ドローム	一一一	九三二、〇二五	九九五、二〇七
ヷォークリューズ	八四	六六八、〇七二	六六六、四〇五

フーシュザン	三八	一六〇、三五一	一七五、八九三	井ヒール　七七	二四三、一九七　二四四、六一二
ロー　ヌ	四四	二七二、四〇六	二四四、二〇〇	ヌロール　三九	一一〇、七七七　一一二、一九一
ヴァール					
合計					六九五　五、五三二、九七八　五、五一四、三〇一

前表に據れば本年の收穫は昨年分と較ミ同額なるを見るべし

◎里昂生絲景況　里昂市生絲の景況に關し同市駐在帝國二等領事山田忠澄氏より十月三日附を以て農商務省へ左の電報ありたり

佛國里昂市に於ける生絲市況漸次昂騰の傾向を呈し市價甚だ強氣を帶び本邦生絲の在荷は甚稀少なり

◎里昂蠶絲商況竝伊國新繭賣上高　里昂蠶絲商況竝に伊國新繭賣上高に附き里昂駐在帝國二等領事山田忠澄氏より本年八月八日附を以て外務省へ左の如く報告ありたり

當地蠶絲商況は前報告後必需の小取引に止り依然不振の狀を脫せずと雖も幸絲價に一層の低落を示すことなく能く之を維持せり新絲の原價現時の相場に降るべくもあらず又織屋が貯ふる所の原料絲潤澤ならざると同時に東洋蠶絲市場の氣配强く從て當市場への着荷滯緩の狀を呈せる如きは是れ即ち絲價の維持に聲援を與へたるものと云ふべし「シリー」及「ブルース」生絲の如きは品質好良なるにはあらざれども目下其市價比較的に低廉なる故を以て當週に於ては主として該絲の取引ありしと雖も全體の絲況未だ浮揚の兆候あるを見ず今方に暑中休暇季節なれば現時市場の寂寞たる敢て怪むべきにあらざれども米國大統領改選に關する政派の爭頗る熾にして未だ豫め其勝敗を卜するに至らず人心惚々たるの結果近くは米國市場の恢復を妨遇し遠くは其餘響當地の絲況に波及せしは掩ふべからざる事實にして是れ亦今日の不振を釀成したる一原因と認めざるべからず佛國即ち里昂の大華客たる米國に於ける商況の浮沈は當地の蠶絲商況に直接至大の影響を及すべきものなれば當地絲況の前途は大に米國商況の如何に因るべしと信ず

本年七月三十一日より八月六日に至る一週間當地蠶絲檢査所に於ける登記絲量十一萬三百二十四基此梱數千七百二十箇の內東洋產の分を摘記するに左の如し

日本	二二八梱	支那	一七〇梱	廣東	四六四梱

本年七月三十一日當地蠶絲共同倉庫に於ける蠶絲の在荷高を調査するに左の如し

日本	八三五梱	廣東	一、〇七八梱	歐洲	三四三梱
支那	六二二五	孟加拉	四〇	合計	二、九二一

當週に於ける生絲の相場を列擧するに左の如し

佛、セクヮンヌ	一等	三	四一法—四二法	同	二等	〇	三四法—三五法
同	二等	三〇	三九—四九	「メシンヌ」	極上	三	四一
「ブルース」	極上	二/三	三八	伊太利	一等	〇〇	三九
同	一等	二/三	三六—三七	同	二等	三	三九半
同	一等	二/三	三五半—三六	同	一番	二/三	三九半
同	二等	二/三	三五—三六	日本機械絲	一番半	四〇	三八—三八半
同	二等	二/三	三五	同	二番	二/三	三五
「シリー」	一等	〇六	三四—三五	廣東	一等	二/三	三一

同	二等/三	二八—二九半	
同	二等/三	二七半—二八半	
同	三等/二〇	二三半—二四	

本年佛國に於ける養蠶の成績は既に前便を以て報告せり今茲に本年伊國各市場に於ける新繭賣上高を擧げんに左の如し

地名	市場の數	二十九年	二十八年
ピエモン州	二五	四、三八七、一九五瓩	五、六三二、五八〇瓩
ロンバルヂ州	一〇	一、七四八、八二六	一、六九九、二一一
ウエネレー州	二	三五八、〇六五	二七八、九二五
エミリー州	一六	二、〇八〇、五三九瓩	二、〇一八、七五七瓩
マルシユオン	一二	一、〇一〇、二五二	一、〇七二、七一一
ヂリー州	九	六三〇、七三三	六二一、七九二
トスカン州			
計		七四一〇、二一五、六〇九	一一、三二四、三七六

此表に據れば本年の賣上高は昨年の同高に對し百十萬八千七百六十七瓩即ち凡そ一割の減少を示せり是れ果して實際收獲減少の割合を表するものなるか之を確知するに由なしと雖も茲に之を掲げて參考の一端に資す

●雜報

●蠶業講習所傳習始業式

農商務省所轄西ヶ原に於ける蠶業講習所にては本月二日を以て此程新に募集したる本科生傳習の始業式を擧行せられたり該傳習生は本年三月當蠶業試驗場の蠶業講習所と改まりし後ち初回の募集に係り更に規定したる傳習規則に依りて學科を修めしむる者にして其入員は五十名なり當日藤田農務局長の代理として紫藤農務局蠶茶課長臨所し來賓には澤野農事試驗場長及同試驗場各技師參列し午前九時練木蠶業講習所長を始め教員生徒及來賓一同式場に着席するや練木所長起ちて式辭を演述し次に傳習生總代小畑文太郎氏答詞を朗讀し九時四十分式全く終る傳習生の氏名は左の如し

島根縣	小畑文太郎	岩手縣	愚田經次郎	三重縣	服部柳太郎
石川縣	鹽谷清太郎	愛媛縣	下井盛夫	大分縣	朝倉貞人
京都府	西原德太郎	山形縣	森村孝之助	宮城縣	志村文三
岡山縣	岩藤馬太郎	奈良縣	玉木波三郎	茨城縣	橋本錦吾
島根縣	古川萬之助	京都府	橋本泰次	德島縣	川人兵次郎
岡山縣	蜂谷勇吉	群馬縣	岡村龍七郎	靜岡縣	井口幹夫
大分縣	佐藤保	三重縣	上田佐四郎	高知縣	池本馬太郎
長野縣	松尾重信	埼玉縣	坂本彌三郎	千葉縣	鈴木彦夫
宮城縣	川村常三郎	山形縣	村形貞次郎	山口縣	小田耕介
愛知縣	山田島次郎	福岡縣	鶴我盛城	京都府	中西留應
高知縣	森正恒	石川縣	田中榮	茨城縣	堀越誠太郎
京都府	大槻虎雄	山梨縣	飯田耕平	宮城縣	前島次郎
京都府	一色芳藏	山形縣	古藤泰助	新潟縣	弘宜喜一郎
長野縣	窪田頼次郎	愛知縣	加藤敏次	福島縣	加藤嘉平
神奈川縣	小島道治	東京府	榎本治吉	兵庫縣	關口宗一

埼玉縣　加藤唯三郎　山梨縣　荻原安市
新潟縣　竹内與三郎　岩手縣　高橋太吉　鳥取縣　山根豐藏

◎蠶絲業狀況視察員報告

曩に農商務省に於て蠶絲業狀況視察の爲め歐米に派遣したる農商務技師本多岩次郎氏より去る八月二十日附を以て農商務省へ申達したる報告は左の如し

拜啓仕候陳者米國に於ける本春以來本邦生絲輸入減少の原因に就きては先便其概況を報告仕候其後小官儀絹業協會に書記長リチヤードソンを訪問し又バターソン及ペンシルバニヤ等の機業地を巡回し親しく當業者に就きて本邦生絲の缺點及改良すべきの要點等取調候處是迄米國より本邦へ報告有之候如く其個條は實に夥しく候得共要するに今日のところ

(一)同括の生絲に細毛を生ずること
(二)絲縷に細大あること
(三)節の多きこと
(四)絡交の不完全なること
(五)二本揚り三本揚り甚しきは四本揚りあること
(六)同製絲所の生絲にして始終同一の品位を出さゞること

等は其重なる缺點にして此等の缺點をして務めて排除するにあらざれば米國市場に於て伊佛の蠶絲と競爭するとは得て望むべからざる義と被存候又本邦蠶絲は其原料たる繭の不良なるが爲めに伊絲に劣り佛絲に及ばざるやに就きては充分の調査を致候處是決して然るにあらず現に本邦生絲にして其製法の懇ろなるものにありては米國市場に於て反て伊佛に優るもの有之候又數回試驗の成績を案ずるも本邦生絲は其強伸力にありては伊佛の絲に伯伸して毫も劣る所なきを以て見れば其蠶絲固有の質は伊佛の絲質と敢て異るなきを保證致候義と被存候然るに往々日本絲は其強伸力の點に於て伊佛の蠶絲に及ばざるなりとの說有之候得共是決して其強伸力の點に於て及ばざるにあらずして絲縷に細大あるが爲め機織に上せて切斷多きが故に右の如き批評有之候義と被存候夫故今日紐育市場に於て本邦生絲と伊佛の生絲とを比較して肉眼の鑑定にありては色澤と謂ひ類節の多寡と云ひ細大と云ひ總て同一なるものたりとも其價格に至りては伊佛の蠶絲は本邦蠶絲に比して常に一封度に付二三十仙の高價を呈するに至り申候實に慨嘆の至りに御座候故に今日に當り本邦當業者は宜しく目前の少利に眩迷せず其缺くる所を益々補ひ其製法を懇ろにせざれば伊佛の蠶絲と競爭場裏に立て凱歌を奏すると能はざるのみならず終には伊佛蠶絲の爲めに經絲界を蹂躙せられ本邦蠶絲は緯絲界に徘徊せざるを得ざるに至るは明なる義と被存候

又ペンシルバニヤ及バターソン等の撚絲場を實見致候處日本絲の再繰は伊佛の蠶絲と等しく繰返し容易なるものありと雖も亦其甚だ困難なるものありて一分間枠の回轉數は僅かに六七十回に過ぎざるものも尙停止せる枠四割あるを目擊致候然るに伊佛の蠶絲にありては決して斯の如く再繰に困難なるものあらざる由に御座候而して御承知の通り米國にありては工男工女の賃金は甚だ高價にして右再繰に從事せる工女の如きは一週日(六日間)金四弗の賃金なれば一日六十六仙餘(即ち我一圓二十錢餘)に相當致候間再繰の難易に依りては其工賃に大なる差異を生ずるとに有之候故本邦生絲の

米國市場に信用を得せしむるには絡交に注意して以て再繰を圓滑ならしむること肝要なる事項の一となす

日本蠶絲の細毛を生ずるとは亦大なる缺點にして機織の後明に機上に顯はるゝものなれば宜敷注意を要すべき事に有之候又節節の多きも日本蠶絲の一大缺點に有之候節節の多きときは機織器械をして其運轉を鈍からしむるものにして上等絹布を製するには必ず節節寡き上等絲を以て經絲に充つるは勿論なりと雖も亦下等絹布を製するにも今日に當りては節節寡き上等絲を以て經絲に供するの有樣に有之候何となれば下等絹布を製するには一人の職工をして一日多量の織物を製せしめざるべからず一日多量の織物を製せしむるが故に筬の運轉をして速かならしめ一分間百六十回乃至百八十回の運轉を用ゆる有樣に御坐候故に假令下等織物を製するにも經絲には上等絲を使用せざれば切斷多く爲めに器械の運轉圓滑ならざれば反て收支上不利を免れざる義に有之候斯の如く今日米國機業は成るべく上絲を需用するの有樣なれば本邦當業者も宜しく此點に注意して米國機業家の嗜好に適する蠶絲を供給するに怠らざるを要すること是亦肝要なる事項と存候

二本揚り三本揚り乃至四本揚りの絲は近頃本邦生絲に屢〻顯るゝ所の事にして是等數本揚りは撚絲の際工女の目に附かずして其儘ボビンに卷付け撚絲を終りて其絲を檢査するときは恰も細大二種の絲を撚りたるが如く所謂縮絲を生じ機織の後は織ムラを生ずるに至る數本揚りの起る原因は製絲場に於て再繰の際小枠と絡交器との距離長きが爲めか室内に風の流通甚しきが爲めか將た他の原因の存するありてか一絲切斷して他の絲に纏結するより起るものなれば二本揚りの如きは或は之あるべきも三本揚り四本揚りの如きは實に甚しきものにして未だ全く信を措く能はざりしがパターソンの撚絲場に於て實際四本揚りあるを實見仕り驚入申候二本揚りの如きは孰れの撚絲場に於ても往々散見仕候有樣に御座候故に今日の處之れが改善の道を講ずるは急務中の急務と存候

又同一の製絲場にして同一の商標を有するもの四季によりて其絲質に大差あること亦た日本蠶絲の缺點と爲す故に本邦生絲製造家たるもの宜しく此點に注意し同一の商標は同質の生絲に添封するにあらざれば米國市場の信用を博すること到底望むべからざる義と被存候

要するに本邦蠶絲に就ては斯の如く夥多の缺點有之候は或は本邦蠶絲業の退歩に基くべしと稱するもの有之候得共是決して其退歩に起因すべきものにあらずして米國機業の發達速かなるによるものなりと被存候米國數十年前の機業と現今の機業とを比較するに工場の規模機械の精巧其進歩實に見るべきもの多し然るに顧て本邦製絲業進歩の有樣を考ふるに其間多少の改良を企圖せるものありと雖も然れども一の以て記するに足るべきものなきの有樣なれば昔日の生絲を以て今日の精良なる機械に掛けんと欲するも苦情なからんと欲するも能はざる義に御座候而して現今尚米國機業は改良に改良を加へ駸々乎として進歩致居候間本邦製絲家は宜しく海外機業の發達に伴ひ益〻奮て精良なる原料を供給するにあらざれば米國機業と本邦製絲と其程度の差愈〻多きを加へ終に本邦は米國機業に供用すると能はざるに至るや明なる事實に有之候間今日に當り本邦に於ける蠶絲は其產額多きを貪るよりは寧ろ其製品をして精良ならしむるを要すると目下の急務と被存候

米國機業は前便御報申上候通り仲々他人に其工場を縱覽せしめざるものに有之候へ共小官義は本邦

生絲改良の故を以て新井領一郎氏の盡力に依りパターソン幷にペンシルバニヤ等を視察仕候然るにパターソンの如きは昨今甚だ閑散にして機械の運轉せる者殆んど一割に過ぎざる有樣に御座候（先便二割位と報告仕候得共實際取調候處一割に過ぎざる由に御座候）現に最も盛なるウイヲアムストレテナ會社の如きも其運轉せる機臺僅か一割五分に過ぎず又た米國中最も盛大にして最も整備せる撚絲場と稱するペンシルバニヤ州のリトド及びロベッド會社の如きは二ケ所にて四萬二千の錘數を有するにも係はらず昨今は一ケ所の工場を閉ぢ一ケ所にて運轉せる錘數二萬に上らざるのみならず一週間中業を取ると三日に過ぎざる有樣に御座候他は推して知るべき義にて絲況の不振御推察有之度候

絲質及び機業上調査の概要は右申述候如くに有之候得共委細は歸朝の上御報告可仕候

◎地遣絲仲買商の困難　去る三日より五日に渉りて横濱生絲市場は著るしく活氣を呈し絲價は朝夕に三四弗の暴騰を現はし隨つて定期は買流行の折柄なれば相場は看る〳〵九十圓臺に押上りしが爲めに地遣絲は越前福井を始め上州桐生及京都西陣等の需用者より多量の買注文に接し仲買商は各自に買先きに奔走し相場も問屋の呼直通り無關に買煽り此の間凡そ千五百俵以上の買約品は一個に五圓或は十圓の差し金にて餘は銀行爲替を以て例の如く各仕拂ひを爲す筈なりしも其後現物市場の不振に加ふるに定期市場も俄に一變し一日に三圓以上或は四圓方の大暴落を來せしより銀行者は一般に此變動を氣遣ひ其後荷爲替の取拂ひを中止したるに賣方の問屋に於ては既に荷物看貫濟の事とて孰れも跡金の催促嚴しく且つ荷渡しを急がすより仲買商の中には非常に困難を來せるものありと云ふ

◎枯葉を喰食する夏蠶　信州小縣郡鹽尻村大字秋和の養蠶家瀧澤源太氏は是迄毎年婦人の慰みとして「キソコ」と稱する夏蠶を飼育せしめしに此等は珍らしき性質を有し普通の蠶の如くに桑の青葉を食せずして桑葉の黄色を呈し殆んど凋落せんとする程のものを喰食せり故に數年間は此黄色を帶びたる枯葉のみを以て飼育したるに蟲質強壯にして繭も相應に美事なるものを產せる由試みに青葉と黄葉とを給するに青葉よりも黄葉を好みて食し黄葉蠶くるの後にあらざれば青葉を食せず實に不可思議なる蠶兒なりとぞ

◎蠶絲業に熱心の婦人　山口縣豐浦郡瀧部村字坂井下三尾某の妻つや子（二十七年）は夙に養蠶製絲の業に熱心し同地方の勸業上に少なからざる裨益を與へしかば孰れも之を德として感じ合へるがつや子は從來同地方製造の眞綿が本場品に比し遙かに劣等にして價格の低きを憂ひ一たび本場米澤に到りて十分に實地の研究を爲さんものとの思ひを起せしも元來其家富めるにもあらず且つ夫ある身なれば志を達し得ざるを嘆きつゝありしが兩親及夫は其熱心に感じて出立することを許容し又此事いつしか同縣蠶業の泰斗たる中村正路氏の耳に達しければ深く感嘆し婦人の單旅は隨分苦難も多ければ幸に東京芝高輪なる毛利公爵の邸内には自分の縁戚者ある故に一應同人に就き指揮を乞はれよとて一封の添書を與へぬつや子は中村氏の懇切なる心に一層の力を得て其喜び譬ふるに物なく急ぎて旅の準備を爲し自家製造の繭一升と中村氏の添書とを携へ單身鄕里を出發したるは本年一月上旬の事なりしとかや着京後直ちに毛利邸に赴きて中村氏の縁戚某氏を尋ねしに折悪しく轉地療養の爲め不在と聞き大に落膽せしが心弱くては折角の志も遂げ得られじと心を取直し漸く上野に到りて仙臺行きの汽車に

乗込み福島にて下車し夫より徒歩して米澤の手前なる板谷峠の難處に差掛りければ風雪谷を填めて玉を縷めし峯高く聳へ見るからして怖ろしき路なれど凝りに凝つたる一念何ぞ躊躇すべき林に縋り草莊蹈しめ〳〵辿る行手に鐵道工事に從事する人夫どもつや子を呼留めて住所行先等を不審げに尋ぬるにぞつや子はありのまゝ實情を明かせしに其中の指揮役とも覺しき人より是より先きは雪多く到底かよわき婦人の行き得べくもあらざれば寧ろ岩代掛田地方に引返すこそ然るべしとの注意を受けたれどもつや子は艱難辛苦は固より覺悟の上の事なれば積雪の爲めに豫ての望みをば枉げ難き旨を答へしに其人もいたく感心せし樣子にて再びは强ひず却て雪中旅行の器具をさへ與へたるのみか已れの親戚なる米澤の岡田某は織物及眞綿の製造を業とすれば同人方に同道して紹介すべしとて誘ひ與るゝまゝ岡田氏に到るに氏も亦義俠の人にて何くれとなく親切に世話を爲しつや子が自身携帶の繭は言ふ迄もなく特につや子の爲めに數斗の繭を買入れて周到に教授を爲し與れたればつや子は厚く岡田氏に謝して其宅を辭し夫より豫て聞及びたる福島縣伊達郡伏黒、掛田、黒川等の地方に於ける眞綿製造の實況を視察して無事に歸鄉したるは三月なりしが其後は一層誠實に斯業に力を盡し春蠶は頗る好結果を得て目下專ら製絲を營み居れるが闔縣擧つて其篤志を感ぜざるものなしと云ふ

◎前橋市と上毛倉庫會社　前橋市は生繰製絲の本場として又關東地方繭集散の中央市場として年々同地へ繭を吸集して再び之を各地方へ吐き出し或は消化して製絲となし横濱へ送りて輸出に供し又は地遣絲となりて桐生、足利及越前地方の織場へ廻送する絲繭の數量は隨分巨額にして恐らくは他地方何れの地にても同地に比肩するものゝあらざるほどなりしに本年は例年に反して六七月の頃より八九月に掛け繭出盛の際に當りて横濱の絲況は引續き不振なるにも拘はらず繭は出始めより坪方高張り其相場如何にも割高なりし爲め製絲家及繭商人は孰れも買入を手控へ隨て他地方より同地へ送荷をなして賣捌かんとするものも少なく去る九月下旬頃迄は繭の入荷如何にも微々として例年の如き景況なかりしどのとなるが横濱絲況活潑となりし爲め歟、或は同地の如く多數の製絲家もあり繭商人もありて銀行及倉庫等の機關を具へし處に非ざれば結局賣るも買ふも其捌きに不便なる爲め歟、去月以來各地方より同地へ輸入する繭追々增加し殊に本年六月開業せる上毛倉庫會社に於ては專ら絲繭の保管預りを爲し懸篤に其業務を取扱ふ爲め荷主は同社へ寄托すれば安全にして且つ銀行者に依ては同社預り券を以て容易に金融の便を享くることを得ると又た繭の望み人は同社多數の寄托者に就き其の望むところの品を買入ることを得て至極便利なる所あるによりてか昨今同社檢査場へは繭商及絲商雎を接して來集し賣買の手合盛からず現に去る五日の如きは荷主鴻巣町繭商某より同地蠶絲家某へ一手に一萬五千圓餘の賣買出來し尙ほ近日右の如き大口の賣買行はるべき見込ありとぞ

◎生絲合名會社出張所　横濱に於ける日本生絲合名會社にては近來神戸港に生絲の入荷高大に增加し現に五百個以上の在荷滯積し居るにも拘はらず進んで之を買入れんとするものなきを遺憾とし近々同地に出張所を設立し其買入れたる生絲は同地より直ちに歐米へ輸出するの計畫中なりと云ふ

◎諏訪製絲家夜業を始む　信州諏訪の製絲家は新絲以來の不景氣に落膽して全然休業せるもの又は持釜の幾部を休止せるもの尠からず故に本年は夜業は勿論の事閉業も例年よりは餘程早かるべしと思ひしに先月中より横濱生絲市場の狀況漸く活潑となりて案外の利益をも占め得らるゝに至り

しにそ急に元氣附きて俄に空釜を充たすものありとのことなるが開明社（片倉兼太郎氏兄弟）尾澤製絲（尾澤金左衛門、尾澤福太郎、尾澤琢郎の三氏）光進館（林繼九郎氏）等の如きは本月一日より開始せりとぞ

◎生絲檢査規程の刪除改正　十月七日農商務省告示第二十七號を以て生絲檢査所生絲檢査規程中左の通り刪除改正せられたり

第四　纖度の項中「及正量」の三字を刪除す

第七　練減の項中「六本」を三本に改む

農商務省告示第二十七號參照

農商務省告示第八號生絲檢査所生絲檢査規程（明治二十九年四月一日）抄錄

第四　纖度

纖度檢査は生絲一箇中より五本を採りて一本毎に長さ五百「メートル」づゝ四日を採り其一日毎に「グラム」を以て原量及正量を秤り之を平均して纖度の本位を定むるものとす

第七　練減

練減檢査は生絲一箇中より六本を採り之を三分して其二分の無水量を檢し其絲量四分一の馬耳蘭石鹼を熱湯に溶解し生絲を麻袋に入れて該湯に投下沸騰すること二回にして更に微溫湯に投下之を攪拌して清水に移し能く洗滌乾燥して練減の百分比例を求めて之を平均して護謨質其他の物質量を檢定す而して其差一以上なるときは殘りの一分を檢査し終りに三分の平均數を求めて之を練減量とす

◎日本に於ける國家補助産業策　日本人は事々物々唯國家的補助を是れ仰ぎ政府を以て經濟上起業上諸災救濟上の唯一無二の保護者と信奉せるもの也、生絲商人等は國庫より無利息にて巨額の資本を流用するとを得んと運動し茶業者も亦同樣の請願運動を爲し汲々として國家救助を獲んとを是れ努む近頃茶業者は京都に集會し政府に哀願し輸出稅を廢し之れを以て該産業基本金に充つるの認可を得んとを請願せんと決定せり勿論此動議の眞意は日本に於ける外商設立の會社が輸出する茶に對し依然の如く海關稅を支拂はしめ之を積立てゝ內國製茶業者に分與せしめんとするに外ならず而して此手段に據り行々は外商輸出業者の貿易を蹂躪し外商をして直接に內國製茶業者より購賣するとを得ざらしめ內國茶商一手に之を買占め以て內國製茶業者より比較的低價を以て買占めんとするの發意に外ならず而して他の決議に據れば政府補助費に加ふるに內國製茶業者の總躰より製茶輸出商聯合部に多少の寄附を爲さしめ直接輸出商にして五萬斤以上の茶を輸出する者には百斤に付一圓の補助を與へしめんとするに在り而して價格を一定し「近時米國市場に於ける日本茶の需要は印度（錫嵶島）茶の輸出に凌駕せられ居るが故に此勢敵に對抗せしめんため大に日本輸出茶商を保護するの道を講ぜざるべからず之が爲め巨金を擲ち日米の爲め新しき市場を求めざるべからず」と決定せり、何につけかにつけ補助を仰ぎ政府頼みするは日本人の弱點也と八月七日の「バル、マル、ガゼット」は記す事實多少相違する所ありと雖も兎も角本邦産業社會の通弊を穿てりと謂ふべし蠶絲業者亦省みざるべからず

◎薪材運搬の高架鐵路　信州高井郡の各製絲家は孰れも原價と略ぼ同一の運賃を拂ふて薪を買入るゝの委なるより右の薪商負商人は此運賃を低減せんが爲めに今般夜間瀨村字スカ川入の山上より同山下なる横倉邊迄二里餘の間に一種の高架鐵路を設けんことを計畫し目下已に該工事に着手中にて本月中には悉皆落成せしむる見込の由なるが其設計たるや二十間毎に堅牢なる支柱一本を建てゝ其上に二條の鐵路を架設し兩鐵路の間へは一條の鐵鎖を引き斯くして運搬車の左右に設けたる溝のある

車輪を其鐵路に箝まらせ別に中央に附けたる齒のある車輪に其鐵鎖を嚙ましめ此中央の車輪に依りて緩急の度を取りつゝ下降する事となし其一旦下降して運搬し終りたる空車を引上ぐるには山上なる萬力車を用うる趣向なりと云ふ

◎瑞西國絲商アベキ氏

横濱居留地外國生絲商中信用尤厚き甲九十番館の絲商瑞西國人アベキ氏は當春本國に歸省せるが逐次歐米諸國の生絲市場を視察して去月二十七日歸館したる由

◎横濱生絲檢査所生絲檢査調

横濱生絲檢査所に於て九月十四日より十月十六日に至る間に檢査せる生絲は左の如し

請求月日	生絲種類 個數	産地	製産者	檢査項目	請求人
九月十四日	器械一箇	伯耆	田江製絲場	原量、正量、再繰、纖度、纇節、強力、伸度	安西
同十五日	同一本	信濃	鷲上社	纖度	九十番
同	同一箇	同	同	再繰、纖度、纇節、強力、伸度	小野
同十六日	同五本	同	黒田與八	同	横濱生絲
同	同五	同	同	同	同
同十七日	坐繰一箇	上野	下仁田製絲社	原量、正量、再繰、纖度、纇節、強力、伸度	下仁田製絲代澁澤
同	器械一括	美作	堀殘太郎	再繰、纖度、纇節、強力、伸度	紳榮
同	同一	周防	德山製絲場	同	同

請求月日	生絲種類 個數	産地	製産者	檢査項目	請求人
同十七日	器械一括	備中	中備製絲會社	再繰、纖度、纇節、強力、伸度	紳榮
同	同一	美作	永盛製絲會社	同	同
同	同一	讃岐	金森製絲場	同	同
同	同一	但馬	國の宮製絲場	同	同
同	坐繰十本	上野	上州碓氷社	同	九十番
同	同十	同	……	再繰、纖度、纇節、	同
同十八日	器械一括	美作	厚生館	再繰、纖度、纇節、強力、伸度	紳榮
同	同一	石見	石水社	同	同
同	同一箇	信濃	太陽社	原量、正量、再繰、纖度、纇節、強力、伸度、練減	茂木

請求月日	生絲種類 個數	産地	製産者	檢査項目	請求人
同十九日	同一	同	飯島儀八	再繰、纖度、纇節、強力、伸度	小野
同	同一	同	六工社	同	同
同	同一	遠江	伊藤仙太郎	原量、正量、再繰、纖度、纇節、強力、伸度	伊藤代水村
同	同一	三河	豐橋製絲株式會社	原量、正量、再繰、纖度、纇節、強力、伸度、練減	豐橋製絲代若尾
同	同一	相模	三枝宗啓	同	三枝代同
同	同二括	同	盛進社	再繰、纖度、纇節、強力、伸度	盛進社代同
同	同一	同	同	同	同
同	同二	同	同	同	同
同	同二	同	同	同	同
同	同二	同	同	同	同
同	同二	同	同	同	同
同	同二	同	同	同	同
同	同二	同	同	同	同
同	同二	同	同	同	同
同	同一	同	同	同	同
同	同二	同	同	同	同
同	同一	同	同	同	同
同	同二	同	同	同	同
同	同一	同	同	同	同

請求月日	生絲種類 個數	産地	製産者	檢査項目	請求人
同十九日	同二	同	同	同	同
同	同一	同	同	同	同
同	同二	同	同	同	同
同	同二	同	同	同	同
同	同一	同	同	同	同
同	同二	同	同	同	同
同	同二	同	同	同	同
同	同一	同	同	同	同
同	同一	同	同	同	同
同廿一日	同一	相模	久保田惣右衛門	再繰、纖度、纇節、強力、伸度	久保田製絲代渡邊
同	坐繰一括	岩代	……	同	花輪代渡邊
同	器械一箇	信濃	高橋吉次郎	原量、正量、再繰、纖度、纇節、強力、伸度、練減	茂木
同	同一	陸前	西條芳三郎	原量、正量、再繰、纖度、纇節、強力、伸度	木村
同廿三日	同一	常陸	乾製絲所	同	茂木
同	同一	尾張	佐橋清藏	同	佐橋代澁澤
同	同十本	三河	北川製絲場	再繰、纖度、纇節、強力、伸度	茂木
同	同一括	信濃	信濃國大塚製絲場	同	大塚
同	同一個	和歌山	島村製絲場	原量、正量、再繰、纖度、纇節、強力、伸度	小野

請求月日	生産種別	産地	製産者	檢査項目	請求人
同廿四日	器械一筒	加賀	須井善吉	原量、正量、再繰、繊度、額節、強力、仲度	柏木
同	同	陸中	中澤社	同	同
同	同	甲斐	益田藤平	同	同
同	同	越中	清光社	同	同
同	同	越中	岩亀中蠶	同	同
同	同一	信濃	俵田社	再繰、繊度、額節、強力、仲度	小野
同	同	……	……	同	同
同	同一	同	……	同	同
同	生繰六本	武蔵	木内さん	同	原
同	器械九本	信濃	開明社	繊度	横濱蠶絲外
同	同十	同	白鳥社	同	同
同	同十	同	開明社	同	同
同	同七	同	信英社	同	同
同廿五日	同一括	美濃	金華社	再繰、繊度、額節、強力、仲度	百七十七番
同	同一	信濃	俊明社	同	同
同	同一	羽前	真進社	原量、正量、再繰、繊度、額節、強力、仲度、練減	同
同	同一	信濃	俊明社	同	同
同	同一個	越後	長岡製絲場	同	茂木

請求月日	生産種別	産地	製産者	檢査項目	請求人
同廿五日	同一	尾張	近藤製絲場	原量、正量、再繰、繊度、額節、強力、仲度、練減	茂木
同	同一	信濃	宝賀今朝太郎	同	同
同	同一括	羽後	千葉勝美	再繰、繊度、額節、強力、仲度	千葉
同廿六日	同一箇	美作	久世製絲合資會社	原量、正量、再繰、繊度、額節、強力、仲度	山田
同廿八日	器械二括	遠江	別佐製絲會社	再繰、繊度、額節、強力、仲度	小野
同	同五本	信濃	日東社	繊度	横濱蠶絲外
同	同五	同	協精社	同	同
同	同五	同	最信社	同	同
同廿九日	同一個	同	紫湖社	再繰、繊度、額節、強力、仲度	小野
同	同一	越後	小出製絲合資會社	原量、正量、再繰、繊度、額節、強力、仲度	茂木
同	同一括	信濃	片倉組	再繰、繊度、額節、強力、仲度	小野
同	同一	同	金田茂市	同	同
同	同一括	生繰磐城	三盛合名會社	同	井上
同	同一	同		同	同

請求月日	生産種別	産地	製産者	檢査項目	請求人
同	器械五本	信濃	白鳥社	再繰、繊度	横濱蠶絲外
同	同五	同	三全社	繊度	同
同	同十	同	七曜星	同	同
同	同五	同	東英社	同	同
同	同五	同	同	同	同
同	同廿	同	八幡株式會社	原量、正量、再繰、繊度、額節、強力、仲度	茂木
同	同一括	伊豆	井出勝彌	再繰、繊度、額節、強力、仲度	井出代透
同	同一	同	……	同	三井物産
同	同一	同	……	同	同
十月一日	同一	信濃	大塚製絲場	原量、正量、再繰、繊度、額節、強力、仲度	茂木
同	同	同	近江社	繊度	安西
同二日	同一個	遠江	井伊製絲株式會社	原量、正量、再繰、繊度、額節、強力、仲度	木村
同	同一括	信濃	優勝館	再繰、繊度、額節、強力、仲度	井上
同	生繰十本	上野	碓氷社	同	二番館
同	器械二個	信濃	鹽原重次郎	原量、正量、再繰、繊度、額節、強力、仲度	若尾

請求月日	生産種別	産地	製産者	檢査項目	請求人
同	生繰一個	安達	安達合資會社	同	安西
同	同一括	岩代	瓦製合資會社	同	同
同	同一	同	柳沼製絲所	同	同
同	同一	同	八幡製絲株式會社	同	同
同	同一	同	片倉組	同	同
同	同一	信濃	尾澤組	再繰、繊度、額節、強力、仲度	小野
同	器械三個	近江	近江製絲會社	繊度	同
同五日	同一	信濃	片倉組	再繰、繊度、額節、強力、仲度	茂木
同	同一括	信濃	片倉組	再繰、繊度、額節、強力、仲度	小野
十月六日	同一	近江	八幡製絲株式會社	同	同
同	同一	近江	山敷源吉	同	同
同	同一	越後	越陽館	原量、正量、再繰、繊度、額節、強力、仲度	同
同	同五本	近江	山中製絲所	繊度	横濱蠶絲外
十月七日	同一個	信濃	信府組	再繰、繊度、額節、強力、仲度	小野
同	同一括	但馬	四谷金三郎	同	神榮
同	同一	美作	津山製絲合資會社	同	同
同	同五本	信濃	鹽上館	繊度	横濱蠶絲外
同	同五	同	同	同	同
同	同五	同	同	同	同

請求月日	生糸種類	産地	製産者	検査項目	請求人
同七日	器械五本	近江	山中製絲所	纖度	横濱生絲外
同	同一個	紀伊	伊原利三郎	再繰、纖度、類節、強力、伸度	茂木
同	同一	陸中	伊東惣平		
同	同一	甲斐	山梨製絲合資會社	再繰、纖度、類節、原量、正量、再繰、強力、伸度	伊東代飯島
十月八日	同五本	甲斐	甲社	纖度	山梨製絲代同
同	同五	信濃	對岳館		同
同	同五	同	長信社		同
同	同五	同	紀伊中尾文三	再繰、纖度、類節、強力、伸度	横濱蠶絲外
同	同一括	同	同	再繰、纖度、類節、強力、伸度	井上
同	同一	同	同		
同	同一	大和	五條製絲場		
十月九日	同一個	山城	山城製絲株式會社	纖度	同
同	同一括	駿河	岩淵製絲合資會社		茂木
十月十日	同一	美濃	進榮社長後藤其吉	原量、正量、再繰、纖度、類節、強力、伸度	若尾
同	同一	同	同		神榮
同	同一飛騨	同	同		同
同	同一	同	六工館		同
同	同一	同	墨繩社		同

請求月日	生糸種類	産地	製産者	検査項目	請求人
同十日	同五本	出雲	同	再繰、纖度、類節、強力、伸度	横濱生絲外
同	器械上野五本	同		再繰、強力、伸度	同
同十二日	器械一箇	近江	森島製絲場	再繰、纖度、類節、強力、伸度	茂木
同十三日	同	紀伊	山本公義		同
同	同	大和	石井清七		同
同	同	近江	大濱製絲場		同
同	同	近江	日野製絲株式會社		同
同	同	相模	玉川製絲場		同
同	同	備中	下道製絲株式會社		同
同	同一括	同	同		下道製絲代山田
同十四日	同	大和	石井清七	再繰	茂木
同	同	同	同		
同	同	同	同		
同	同	同	同		
同	同	紀伊	辻田武雄	再繰、纖度、類節、強力、伸度	井上
同	同	遠江	直良製絲會社名波儀三郎		
同	同	同	同		同
同	同一箇	若代	若松製絲合資會社		茂木
同	同一括	因幡	島田製絲場		中島

請求月日	生糸種類	産地	製産者	検査項目	請求人
同	同	同	同	原量、正量、再繰、纖度、類節、強力、伸度	神榮
同十五日	同一箇	信濃	森元與助		同
同	同五本	大成社	纖度		横濱蠶絲外
同	同	更級社	同		同
同	同一括	紀伊	小林秋丸	再繰、纖度、類節、強力、伸度	井上
同	同	上野于太郎	同		同
同	同一箇	因幡	島田元三郎	原量、正量、再繰、纖度、類節、強力、伸度	中島

◎神戸生絲檢査所生絲檢査調

神戸生絲檢査所に於て八月中に檢査せる生絲は左の如し

請求月日	生糸種類	産地	製産者	検査項目	請求人
同	同	茂木	丹波郡之製絲株式會社		同
同	同	同	同		同
同	同	同	同		同
同	同五本	同五本	甲斐同	再繰、纖度、類節、強力、伸度	横濱生絲外
同	同	同	同		同
同十六日	同一箇	大和	金陽製絲場		同
同	同一括	加賀	酒井善吉		同
九月	器械五本	福山	備後製絲株式會社	再繰、纖度、類節、強力、伸度	神榮株式會社
十一月	五個	福山	備後製絲株式會社		神榮株式會社
同十五日	同六	笠岡	山陽製絲株式會社		同
同	同	同	同		同
同	同五本	津山	津山製絲會社		同
同	同五	岐阜	信勝社		同
同十八日	同一個	但馬	沖田堅		同
同	同四	福山	備後製絲株式會社		同

請求月日	生糸種類	産地	製産者	検査項目	請求人
同廿一日	同五本	鹿兒島市	鹿兒島授産會社	再繰、纖度、類節、強力、伸度	鹿兒島授産會社
同	同五	同	同		同
同	同五	同	同		同
同廿三日	同四	四國	四國製絲合資會社		同
同	同七	廣島	西脇製絲		同
同	同三	兵庫	丸岡製絲場		同

◎熏烟防霜に關する概要

山梨縣にては明治二十四五年以來切に熏烟防霜の方法を勸誘せし

も當時農民中降霜は天災にして人力の豫防し能はざるものと妄信する者多く爲に昔く之を施行するに至らざりしに二十六年及二十八年の降霜は現に豫防法を實施せし箇所に在りては全然被害を免れたるも之に反して實施せざる郡村若くは實施せるも其方法の不完全なる箇所は著しく傷害を被りしを以て漸次其方法を改良し本年に至りては竟に到る處饒て霜害豫防組合を設置せり爲に本年四月二十七、八日及五月六、八兩日の降霜特に八日の如きは降縣各地共に非常の慘害を被りしに拘らず該縣は幸に其害を免れたり是れ實に焚烟豫防の効果に外ならず茲に豫防法の概要を摘記すれば左の如し

一燃料は藁、青松葉、粗糠、柴等其土地に於て得易き材料を蒐集し置き其分量等は三尺繩縛のもの十把乃至十五把を一段歩の燃料に充つ

一點火したるときは燃揚らざる機温濕の類を以て上を蔽ひ時々如露にて水を注ぎ水蒸氣を發せしむると共に烟を立たしむることに注意すべし

一霜降の兆候ありと認めたるときは午前一、二時頃より點火を始め日出後一、二時間は絶えず焚烟を爲し烟を以て滿園を包圍せしむるを要す

一降霜の時は概して無風なるも幾分の微風にてもあらば風向に注意して專ら風上にて焚烟すべし

一日出前後は極て濕烟を發せしむべし

霜害豫防組合規約の概要は左の如し

(一)霜害豫防に關する事務を處理するため村役場内に事務所を設置し一切の事務は村長之を管掌す

(二)豫防委員若干人を置き染園所有者より村長之を選任し豫防區域は之を若干區に分ちて每區委員を定て監督の任に當らしむ

(三)委員は每年四月十五日より五月十日まで每夜二人以上事務所に交代勤務し氣候の變遷降霜の報測に從事し當直委員は測候所の警報に接するか又は警兵來報計三十七八度乃至四十度(屋外)に降りたるときは委員長に急報し警鐘を以て信號を爲し人夫の集合、材料の配置、焚烟著手同鎮止等一定の手續を爲すべし

(四)警鐘に接するときは每戸必ず一人集合所に馳附け委員の指揮を俟つべし

(五)委員は點火に先ちて風位等に注意し其機を失はざらんことを要す

(六)豫防焚烟に關する燃料の賦課は町村制第百一條の規定に依るべし

◎清國産生絲及絹物の盛況

英國領事が上海貿易に關して本國への報告書中に清國の生絲及絹物の製造並に輸出の盛況に赴ける一節あり即ち左の如し

昨年上海の外國貿易が一新面目を現はしたるは主として其の輸出貿易の劇增に在り而して其輸出の劇增は生絲及絹物輸出の增加最とも勢力ある原因とす

生絲及絹物の製造輸出の事は特に深き注意を要す抑も昨年生絲及絹物の輸出高は三千六百萬兩に上り前年に比し四百五十萬兩を增したるは著明なる事實なり熟ら其情況を探査するに上海に於ける機械製絲所は劇かに廿五ヶ所に增加し其備ふる所の釜八千四十個、其製出力一ヶ年一萬四千擔即ち百六十六萬七千斤と稱す此故に上海器械絲の輸出高一昨年は四千三百三十二擔なりしに昨年に至り六千二百七十六擔に增し本年は更に一倍を增さんとし從來輸出品の第二位に在りし生絲今は突如として首位に登るに至れり而して今や上海のみならず蘇州杭州機械製絲所を設立中のもの數ヶ所あり猶ほ漸を逐ふて其增加を見るべき勢なれば清國の繭が悉く器械製絲となつて輸出に供せらるゝの甚だ遠からざるを知るべし

清國製絲者元來其術に暗きこと甚しきが故に彼等は繭を作るも其未だ蛾となつて飛去らざる前に悉く之を製絲せざるべからず是れ清國各地に於ける普通の事にして彼等は繭を保存するの法を知らざるなり故を以て彼等は勢自家製絲力の許す限りを程度として繭を作り亦其餘に及ばず強て自家製絲

力以上の繭を作らば釜に入るゝに先立て蛾となるもの少からざればなり若し夫れ彼等にして繭を保存するの法を覺り各地皆之を傳習せば清國の收繭は忽ちにして非常に增加せん而して繭保存の法は既に清國の一部に傳はり漸く四方に傳播せんとす惟ふに數年ならずして清國の製絲高劇しく增加し其價格降りて大影響を佛伊の生絲に及ぼさん絹織物の輸出高は千八百八十年に千七百擔九十四年に四千五百擔なりしに昨年は無慮七千九百擔に增進せり若夫れ頗る美麗なる絹物の價が二十ヶ年前に比して更に變ることなく今も尙一碼一弗乃至二弗なることを知らば斯る輸出の增進も決して驚くに足らざるべし何となれば一弗乃至二弗は往時莫貨にて四志乃至八志なりしに現今に於ては僅に二志乃至四志に過ぎざればなり云々

◎蠶業別科傳習生の募集　西ヶ原蠶業傳習所に於て今般別科傳習所六十人を募集せらる志願者は左の事項を心得本月三十一日までに入學願書及履歷書各二通を同所長宛にて地方廳に差出すべしとなり

志願者は左の資格を有する者たるべし

一　品行方正にして傳習期中家事係累なき者
二　年齡二十五年以上の者
三　三箇年以上養蠶に從事したる者
四　高等小學校卒業生相當以上の學力を有する者

募集試驗は來る十一月中地方廳に於て之を施行す其科目左の如し

一　養蠶法

◎製絲家の海外渡航　相州の製絲家相進社長持田角左衛門氏は米國生絲市場視察の爲め去月二十三日米國桑港に向け横濱出帆の米國郵船ベルヂック號にて渡航し又信州の製絲家にて往年今井五介氏と共に清國に渡航し盛に支那繭を買入れて我器械製絲の原料に供用したる時の開明社員今の角丸尾澤第二製絲場長尾澤琢郎氏は今回更に支那繭及支那生絲買入れ並に清國内地に製絲場設立の得失視察を兼ね本月二日神戸開纜の日本郵船會社汽船西京丸にて清國上海に向つて出發せり

◎大坂蠶絲取引所　大坂の妹尾平三郎氏外十四名發起にて今度新に設立せんとする大坂蠶絲取引所は資本金五萬圓（一株二十圓）の株式組織にして本月一日大坂府廳を經て發起願書を農商務省に差出したりとぞ

◎京都絲物會社　京都市の絲物商小篠長兵衛、能勢儀兵衛、碓井小三郎、木村孫兵衛、寺村助右衛門外數氏發起人となり今回資本金十萬圓（一株五十圓）を以て京都絲物株式會社設立の計畫あり既に此程其筋へ發起申請を爲したるが其目的は機械組紐の製造販賣を爲すに在りて其創立事務所は上京區西洞院下立賣角に設置し株券は發起人にて各五十株づゝを引受けたる殘額を一般より募集する都合なりと

◎日本生絲貿易會社の設立認可　神戸港に於ける日本生絲貿易株式會社は去月二十八日を以て其筋の設立認可を得たりと云ふ

◎山口縣に於ける西ヶ原出身者　元來同縣下の西ヶ原蠶業試驗所出身者は至りて少數にして明治二十年の習得生山本梅太郎氏は蠶事模範所の教師として名譽ありしが不幸にして早世し二十一年の原田寛治、沼田丹熊の二氏は養蠶傳習所教師二十二年の木村幸三氏は蠶絲業取締所の理事に孰れも就職し栗屋治助氏は鄕里に於て厚西義塾と稱する中學科程の私塾を設けて子弟を薰陶するの傍

はら蠶業をも教授し長野縣より撰任せられたる西岡實太郎氏は美濃郡役所勸業主任郡書記を勤め又本年三月栃木縣より採用せられたる毛利正雄氏は山口縣簡易農學校助教諭兼山口縣養蠶巡回教師を奉職せり右諸氏の内原田、沼田、毛利の三氏及本年の習得生藤本、藤井、竹下の三氏は今回蠶種檢査員に擧げらるゝならんとの事なるが其際に同窓懇親會を開くの計畫ありと傳ふ

◎養蠶傳習生の勤勉　曩に和歌山縣廳の招聘に應じて該縣の養蠶傳習所教師たりし松本嘉三郎氏の報告に曰く傳習生徒は孰れも誠實勤勉にして實業は勿論教師が講話中は殊に靜謐にして能く諸規則を守り互に禮義を重んじ品行方正少しも粗暴の振舞なく蠶業上前途最も多望の人々なりき而して予が歸京後該縣蠶業熱心家の通信に據れば其後も晝夜の差別なく依然として實習及學科を勤勉し居る由右の生徒は近々卒業して各自に鄉里に歸り地方蠶業の擴張と改良とに從事する筈なるが該縣下の蠶業は刮目すべきものあらん云々

◎風害後の桑樹及善後策　大日本蠶絲會員三重縣の西虎吉氏より風害後の桑樹景況及其善後策に關し九月二十二日附を以て報告ありたるが之を接手したりしは已に前號印刷の際なりしに由り稍舊聞に屬すれども左に其全文を掲ぐ、

拜啓各位御々御盛昌奉賀候陳ては以御蠶察塲蠶業を逐ふて增殖の氣運に相向ひ申候驚地幸に山海を帶びて氣候溫和古來稀霜と降雹の害は絕ねて無之隨て桑芽の消長速に有之年々四月十日頃には蠶兒發生に相成候農作上より見る時は上旬後三四週間の後ち始めて田方植付の季節と相成耕耘の餘裕十分に有之一般農家喜んで道々傾向致候然る處去八月三十日非常の暴風起りて農作山林家屋船舶の分ちなく被害の慘況は名狀も致し難く候中にも桑樹は芽先き六七寸づゝ吹き折られ加ふるに海風鹽氣を飛ばし一葉だに存するもの無之霜害も斯くやと思ひ合され中候永年中には各所夫々の天災は免れ難き事と愚考仕候目下更に新芽青々と吹き出で恰も春蠶二眠頃の光景を呈し候隨て翌春の成長甚だ氣遣はしく目下善後の策を求め居候次第右概況而已一寸御報申上候也

◎紐育新聞の生絲論

近頃發兌の米國紐育新聞紙上生絲の狀勢てふ題目を掲げて左の如く論ぜり

春期商賣の失望に續きて秋冬期目的の生絲商賣は兎角繁榮の色なし而して經濟上及商業上に於ける一般不振の狀勢は前途秋冬用品たる絹織物の賣行きに於て極點をいふも稍ゝ好望を豫期し得るに過ぎず今や斯の如き狀勢に對して其の何等の原因に由れるかを論ずるは玆に其の必要なし何となれば是れ既に世人の善く知悉せる所のみならず獨り生絲に於てのみ不振を極むるにあらざればなり然れども這般一般の原因以外に之をして氣勢遲鈍に又之をして生絲にのみ影響せしめし所以の原因なきにしもあらずして其の重なるものは實に流行なり即ち流行は元より絹織物の反對に立てるにあらずと雖も亦た敢て重きを之に置かざるなり是に於て乎製絹業者をして幾何か危惧の念を懷抱せしむるに至れり

生絲市場の無力なる所以に就きては尙ほ他の原因なしとせず何ぞや曰く生絲の開始は市場の形勢を一變せしむる所あるべき有樣なりしに關せず當國に於ける一般商業不振の結果は施ゐて世界の市場に於ける暢通の道を遮斷したり即ち當國に於ける這般の狀勢が如何に影響を他に及しゝかは去る七月に於ける橫濱港の生絲積出しが殆ど皆無なりしの事實と又同時期に於ける上海よりの積出しが殆ど同一の少額を示せしの事實とに徵するときは以て其の結果の甚だ大なりしとを知るべきなり要するに一般生絲界の狀勢をして氣直ほらしめ且つ之をして久持せしむるに至るは米國が金貨主義を維持し併せて現今の幣制を維持するの宣言をなすまでは遂に豫期すること能はざるべし

然れども生絲商賣は其の行路の斯の如く困難なりしに係はらず曾て銳氣を阻喪せざりしなり見ずや製織家が新拵物を以て人氣を誘導し又例へば病兒の如くに育兒的手段と及び特別の注意とを要するの市場を誘導して尠くも幾何かの成功を得せしめん爲め主ら心力を傾注せしことを則ち秋冬用を目的となせる新拵物の供給は實際甚だ多種なりしにあらずや嗚呼今の如き不況に際して人耳を引かしむるに足るの跡、其れ斯くの如し豈誰か勇氣の見るべきものなしといはんや云々

◎千葉縣蠶種檢査成蹟　千葉縣蠶種檢査員佐藤辰太郎氏の報告に據るに同縣の蠶種檢査は昨年度に於ては縣下へ十數箇所の檢査所を設置せしが本年度に於ては千葉町へ一箇所となし同町役場の樓上を以て之に充て檢査員は十四名にして內十二名は千葉縣出身者他の二名は練木蠶業講習所長の紹介を以て群馬縣出身者を招聘せり而して檢査は去る九月一日より開始し同三十日に至るまでの蠶種檢査枚數は一萬三千八百三十四枚にして之を縣別にすれば千葉縣二千九百六十七枚長野縣七千六百十八枚群馬縣二千〇三十五枚埼玉縣八百九十五枚福島縣二百八十五枚栃木縣十九枚茨城縣十五枚なり更に之を合格及廢棄の二樣に區別すれば千葉縣は合格二千二百十三枚廢棄七百五十四枚長野縣は合格六千九百〇八枚廢棄七百十枚群馬縣は合格千八百七十三枚廢棄百六十二枚埼玉縣は合格七百九十五枚廢棄百枚福島縣は合格二百四十枚廢棄四十五枚栃木縣は合格十九枚茨城縣は合格十五枚にして栃木茨城の二縣には廢棄に屬するものなかりしと云ふ

◎岩手縣二戸郡蠶事概況　大日本蠶絲會員黑澤宗一氏の報告に據るに岩手縣二戸郡に於ける本年の原種掃立枚數は二千百四十三枚にして收獲は繭八百八十二石、玉繭百六十六石九斗、屑繭百十九石三斗又飼育戶數は千百三十五戶なり。郡內一般掃立は五月十五六日の頃に始まり同廿五六日迄に終り溫暖にして降雨少く寒暖計六十七八度內外を昇降す三眠前後迄は至極好適の氣候なりしも熟蠶上簇の候に至り氣候一變して溫氣を帶び屢ゝ降雨あり且つ冷溫定まりなきが爲め一般の結果甚だ良好ならず。桑葉發芽の摸樣は昨年と大差なきも春期降雨少く東北風多き故土地に濕氣を失ひ從て生長頗る不充分なり桑葉價格は掃立枚數增加と生長不充分と栽培頗る僅少にして其供給を山桑(天然桑)にのみ依れるが爲め近年稀なる高價を示せり。一般掃立枚數は三割以上の增なれども氣候の不順なると桑葉の不足等に依り結果良好ならざりし爲め收繭量は昨年と大差なきが如し云々

◎有志者協議大會　山形縣置賜三郡米澤市有志者協議大會は客月二十五日午前九時より米澤市柳町茂樹莊樓に於て開かれぬ來會者は米澤市は市長を始め市吏員有志家軍人等五十餘名南置賜郡は郡長を始め郡吏員各村長村吏縣郡村會各議員蠶絲業家及軍人等合せて一百餘名西置賜郡は郡長を始め七十餘名東置賜郡も亦郡長以下四十餘名にして各議題中蠶絲業に關する件を摘記せんに

(一)置賜地方飼育蠶種を一定するの件　(二)無檢査蠶種を飼育せしめざるの件　(三)桑樹栽培法改良の件　(四)蠶蛆驅除實施の件　(五)蠶業教育を普及せしむるの件　(六)製絲踏器械を普及せしむるの件　(七)置賜三郡米澤市養蠶製絲家の氣脈を通ぜんが爲め毎年一回各郡輪番に大集會を開設するの件

にして孰れも原案の如く可決し明三十年は東置賜郡に開會することゝ決定せり(大日本蠶絲會員峰村喜藏氏報告)

◎小海村蠶種繭品評會景況　長野縣南佐久郡小海村に於ける蠶種繭品評會は去る明治二十三年の創設に係り其目的たる地方蠶業の改良發達を企圖する爲め十ヶ年經續開會するものにして本年は即ち其第六回目なりとす開會は九月二十五日にして十月一日閉會す此間公衆の縱覽を許せり出品點數は蠶種六十九點繭七十點にして受賞者は蠶種に二十五人繭に三十六人なり又會場内には地方熱心家の蠶種繭其他農作物工藝品等の參考品夥多陳列せられたり褒賞授與式は十月一日午後第一時同村土村學校内に於て擧行す當日の來會者は吉松南佐久郡長を始めとして郡會議員、村會議員、各村長、警察官、學校職員、區長、區會議員及篤志者等無慮一百餘名にして席定まるや會長武川種作氏開會の趣旨を述べ次に審査委員長木内泰助氏郡長の前に進み審査の結了を告げ成蹟表を呈し褒賞の授與を申請す事務員順次受賞者を喚出して郡長自ら褒賞を授與す終りて郡長の祝詞朗讀發起者總代油井彌一郎氏の答詞受賞者總代澤路銑治郎氏の答詞等等ありて式全く畢るや同所に於て盛宴を張り來會者を饗せり席上武川種作氏開會の趣旨を述べ郡長の挨拶ありて各〻十二分の歡を盡し和氣藹々の中に散會せしは午後六時なりき（大日本蠶絲會員油井彌一郎氏報）

◎百年餘經過の桑樹　山形縣南置賜郡山上村字赤崩は極めて桑樹の發育に適する土地なるが同地藤倉清次右衛門氏所有の立通し仕立高助桑は百年餘を經過したる大木にして周圍九尺高さ六間餘其數は八間四方に開き年々の收葉量百貫目前後なり又同地大野武右衛門氏所有の赤木桑八株を植付け置き其經過は五十年餘にして此收桑合計三百貫目餘なりとぞ此割合より推せば一段歩に付き千百六十八貫三十一匁餘の收入ある積算なりと云ふ實に多量なりと謂ふべきなり

◎蠶業に關する學校　最新の調査に係る本年九月十一日現在の全國中蠶業に關する學校及其位置は左の如し

小縣郡立蠶業學校	郡立	長野縣小縣郡上田町	
南置賜郡立蠶業學校	郡立	山形縣米澤市	
莊内簡易蠶業學校	郡立	仝縣飽海郡松嶺町	
福島縣蠶業學校	縣立	福島縣福島市	
八尾蠶業學校	町立	富山縣婦負郡八尾町	
滋賀縣蠶業組合立簡易蠶業學校	組合立	滋賀縣阪田郡長濱町高田	
西大田蠶業補習學校	村立	廣島縣世羅郡西大田村	
金澤市立養蠶簡易學校	組合立	石川縣金澤市	
蠶絲業組合立山梨蠶業學校	郡立	山梨縣東八代郡	
東八代郡立山梨蠶業學校	郡立	山梨縣東八代郡	

◎沿道桑の大木多し　三陸地方を巡回して去十九日歸京されたる大日本蠶絲會名譽會員田中芳男氏が實地の目擊談話に據れば岩手縣盛岡市を發し宮古を經て宮城縣仙臺市に至る途次陸中の閉井川筋より陸前の本吉郡に達する路傍には行道樹の如くに又沿道の宅地、耕地、山麓等總て百年内外を經過したるものと覺しき桑の大木を繁茂せり而して桑の種類は丸葉の赤木桑に限れるが如し顧ふに舊藩時代に在りては一半は盛岡藩の領地にして他の一半は仙臺藩の領地たりしにも拘はらず斯く一樣に桑を栽植したるは奇と謂ふべし云々

◎第二回品評會及小集會

大日本蠶絲會にては豫て廣告せし如く本月二十三日より二十五日に至る三日間赤坂區溜池町一番地大日本農會々堂に於て第二回蠶種繭生絲品評會を開き公衆に縱覽せしめたり本年の氣候は甚だ不順にして全國の蠶況は極めて不良なりしにも拘はらず出品は意外に夥多にして頗る好況なりき即ち蠶種百四十一點繭百四十二點生絲十八點合計三百一點なり而して審査は十八日より着手し二十二日に結了す受賞者は蠶種一等一名二等十一名三等四十名繭一等二名二等十一名三等三十九名蠶種繭一等一名二等三名三等三名生絲一等一名二等一名三等五名總計百十八名なり二十五日午前十時より褒賞贈與式を擧行し引續きて小集會を開き蠶絲業に關する演說談話を爲せり演說者は藤田農務局長、佐々木農科大學教授、其他貴衆兩院議員、學士、實業家等にして參觀來聽人群集せり尙ほ其詳況は次號の紙上に掲載する所あるべし

●特別廣告

◎入會者

左の諸氏は九月より十月に渉りて通常會員に加入せられたり

東京　佐藤彌十郎
同　大森順造
同　島田成德
同　大野善作
同　野崎彦太郎
同　橋本益兵衛
同　川上幸次郎
東京　石川國太郎
同　石山騰太郎
同　松下松藏
同　小野市助
同　大阪畑嘉吉
同　前田庄次郎
神奈川　鈴木又次郎
新潟　大島豐三郎
同　井口泉
同　藤木正多
同　埼玉長谷部萬作
同　木村梅吉
同　關根利三郎
同　蠶業見玉組

埼玉　立川松之助
同　岡野政吉
同　須川新內
同　平塚八百吉
同　森源藏
同　木村大吉
同　杉浦清助
同　茂木謙吉
群馬　岡村龍七郎
同　高津仲次郎
千葉　作多潔
同　花野井孝四郎
同　宮田淳
同　藤井藤松
同　堀田喜一
茨城　岡本彦五郎
同　上野福次
栃木　永井藤三郎
三重　倉田喜太郎
同　服部柳太郎
三重　服部平太郎
同　辻村虎兒
愛知　廣住孫衛
同　石原貞藏
同　山梨堀內甚之丈
同　油井彌一郎
同　木下興八郎
同　田中治左衛門
同　佐藤園右衛門
同　安原久太郎
長野　松尾重信
同　前澤濱次郎
同　小岩井茂三郎
同　中村鼎
同　佐藤文藏
同　宮城野地嘉吉
同　高橋丑吉
同　志村文三
同　川村常三郎
同　加藤惣右衛門
宮城　佐藤勘太郎
同　佐藤友七
同　齋野彦太郎
福島　加藤嘉平
同　阿部泰次
同　飯沼忠藏
同　田口留兵衛
同　林勘七
同　吉武竹之進
岩手　岩淵平助
山形　大道寺頴藏
同　橫山辰之助
福井　木村末吉
鳥取　遠藤竹藏
島根　小畑文太郎
同　古川万之助
岡山　岩藤馬太郎
廣島　渡邊準太郎
山口　小田耕介
和歌山　島村安兵衛

和歌山　池田濱太郎　福岡　行弘太郎　熊本　布田新吾
香川　庄司隆平　佐賀　北嶋不武八　北海道　古藤泰助
高知　森豐繁　熊本　田邊忠雄　計　八十九名

右の内にて佐藤(彌十郎)氏は小川良助氏、大森氏は佐々木忠二郎氏、島田氏は田村金十郎氏、大野氏は大野傳兵衛氏、野崎外四氏は下田伊左衛門氏、松下氏は松下憲三郎氏孰も紹介せられ、小野、鈴木、長谷部、茂木、堀田、倉田、服部(平太郎)石原、堀内、油井、木下、前澤、齋野、阿部、吉武、遠藤、渡邊、島村、庄司、森(豐繁)の二十氏は各自に申込まれ、畑、前田の二氏は橋本亮氏、大島外二氏は新潟支會、木村(梅吉)關根の二氏は木村九藏氏、蠶業見玉組、立川氏は青木浸次郎氏、岡野外三氏は山田庄三郎氏、木村(大吉)氏は木村彌三郎氏、杉浦氏は小高圭作氏、岡村、服部(柳太郎)松尾、志村、川村、加藤、(喜平)小畑、古川、岩藤、小田、古藤の十一氏は練木喜三氏、高津氏は角田喜右作氏、作多外三氏は生方五郎氏、關本、上野の二氏は長谷部萬作氏、辻村氏は稻葉登名藏、梅岡敏夫の二氏、廣住氏は園田茂一氏、田中外二氏及小岩井は久保田外治氏、中村氏は春名權四郎氏、佐藤(文三)野地、加藤(惣右衛門)氏は加藤養四郎氏、高橋氏は藤本美都喜氏、佐藤(勘太郎)佐藤(友七)氏は轟木長氏、飯沼外二氏は高田子之吉氏、岩淵氏は松田小吉氏、大道寺氏は加藤與平氏、横山氏は齋藤正志氏、木村(末吉)氏は山岸助八氏、池田氏は松本嘉三郎氏、行弘氏は庄田誠太郎氏、北島氏は谷垣内與信氏、田邊、布田の二氏は牛島勉之氏孰も紹介せられたり

●死亡者　左の二氏は死亡せられたり

栃木　永井昇平　香川　矢野久次

農事新報

第九十七號十月廿日發行
一冊八錢郵稅五厘十冊前金
前金十冊に付き郵稅共七十五錢見本は九錢
●廣告料　南部馬町郵便受所振替貯金口座に送付すべし
●郵便切手は一割增に限る
●廣告料　孟宗竹苟○米國の原因研究○蠶家の方針○蠶家の少年○米國の現況○米國に於ける蠶絲の需要○入造蠶絲の輸出○寄書○他樹栽培法○○同上本邦製茶の摘採○本邦製茶の除蟲○花卉の栽培○甘藷栽培實驗○麥食に就て○洋種の大麥の穆枯病に就て○稻の重要緊切なる其他雜穀問答分與蠶報數十件悉く重要緊切なる農商務技師松永伍作君著述

蠶桑實驗說

洋製美裝實價五拾錢
傍訓譯入價五錢
全一冊郵稅六錢
(代金は郵便爲替(南部馬町郵便受取所振替口座)にて御送付の事郵便切手代用は一割增に限る)

抜群の講述最に養蠶術講義あり蠶業界此書の右に出るものなしとは世の定論なり其他技師の講義と稱するものの數種あるも只講話の一地方に適するものにして全國を通して師表とすべからざるもの故に本書稿本の成るを聞くや遠邇の願客書を飛はして發刊を俟す切なり蓋し本書は技師の實驗を經て未だ世人に紹介さるも斬新最も有益なる諸網羅大成せられたるものにて養蠶家をして渴仰止さらしむるもの其奈何に價値あるかを想見すべし第八篇(べき蠶版養蠶術講義と相待て雙絕と稱すれざる最も斬新最も有益なる諸網羅大成せられたるものにて養蠶家をして渴仰止さらしむるもの其奈何に價値あるかを想見すべし第八篇(べき蠶版養蠶術講義と相待て雙絕と稱す

發兌　東京京橋區南傳馬町貳丁目　古今未曾有の最大良書なり　有隣堂

着實周到

誘掖の志ある特に本報に於て見るべきなり

顯著

農家の改良進歩と比例を相成すもの農業の改良は農業の敗稿を改良すれば利益多く加之なら弊力の點なる雜誌類を講究し得ると多々あり故に農事に關する農事改良の捷徑と云ふ可きなり徒らに年の豐穰ならんを欲し家の榮を愛ふるを以て捲され讀者歲月に加はり雜價倍々騰るもの偶然にあらざるべし蓋し論說寄書より問答雜錄其他都ての記事を一讀せよ

發行

東京京橋區南傳馬町貳丁目　有隣堂

蠶業新報主筆竹澤章君序
饒進社長木村九藏君校閲　群馬縣折茂平佳君著

養蠶講義

正價所錢　郵稅紙代錢　洋裝製本付

○完全を以て有名なる饒進社蠶室詳細圖面七組付本書は群馬縣の蠶種家を以て有名なる折茂君が自家傳來の養蠶法に加ふるに其伯父故高山社高山長五郎翁及叔父故進研長木村九藏先生が研磨發明の改良法と現今の學理とを折衷して實地に研究せらるゝ、春蠶飼育法と蠶種撰定、蠶種製造及貯藏、蠶室構造夢に大別し平飼、牛蠶に講述せられたるものなり目今蠶業の發達は實に偉大なるものあり洋紙に記述したる種密なるものは蠶種の飼育の法を丁寧懇切なからん世の養蠶研究に志篤き諸君一たび本書を披讀せば一本を購ふて之を驗せられよ

蠶業新報合本

○明治廿七年分（自第一號至第廿六號）
○明治廿八年分（自第十六號至第廿七號）

本報は廿九年十月十五日第四拾號を發刊し壹部郵稅共壹錢五厘十二冊前金六十三錢廿四冊前金五十三錢廿四冊壹圓廿錢●御送金為替は三田局振込切手代用壹割増の事

郵稅　壹部　正價五拾五錢　郵稅拾壹錢　總ゲロ（）ゴ金文字入　各種貫錄付

發行所　東京芝區高輪南町三十番地　丸山舍

桑苗販賣廣告

桑之部

種類	價格
市島	六圓六十錢
曲輪	八圓七十錢
柳田	六圓四十錢
平田	八圓二十錢
刮田	九圓七十錢
多賀	七圓五十錢

中桑之部

種類	價格
雪田	七圓六十錢
鶴田	八圓十錢
伊勢	七圓六十錢
群馬	七圓八十錢
九文	七圓十錢
佐龍	六圓八十錢
赤城	七圓二十錢
赤田	七圓八十錢
桑田	七圓十錢
長瀬	八圓十錢
中澤	六圓六十錢
青木	六圓十錢
佐市	六圓六十錢

晩桑之部

種類	價格
九葉十文字	七圓八十錢
六十寶珠	六圓二十錢
高助	七圓二十錢
中高	七圓二十錢
鼠返し	八圓四十錢
島の内	九圓十錢

小細

種類	價格
七圓二十錢	九圓十錢

右は何れも上等苗目下の直段なり○多數一口に御注文は割引可仕候○運送費は別に申受候○一種百本以下御注文は御斷り申候

賣捌所　東京芝區高輪南町三拾番地　丸山舍

養蠶實用

舶來乾濕計　壹具　金壹圓貳拾錢

舶來品にして價廉なり
湯暖計其他温暖計を代用す
度目は攝氏華氏對照なり
度目の精確なる他に比類なし
荷造は弊舗自辨なり

弊舗今回發賣仕候舶來乾濕計の義は世間の粗造品と異なり海外有名會社製品中精確のもの相撰み又其内より最も度目正確の分撰抜仕り候義に有之候元來舶來品は和製品と比較仕り候へば優等なる勿論に候へ共隨て價格高直に相なり却て御不便に候處今回發賣仕り候分は舶來品にして度目は最も精確を究め且つ價格も廉價と存じ候何卒大方各位弊舗微意のある所を賛せられ續々御使用の程偏に願上候也
尚右乾濕計の義は取外し自在に攝氏華氏兩目盛に付取外して湯暖計等を兼用候へば製絲釜の温度計も亦相勉め至極便利の品に有之候
當今の内御試驗被下候上來期節に御使用相成候はゝ充分御効力も有之べくと愚考仕候

養蠶用　解剖用鑷其他種々着荷仕り居候に付御入用に候はゝ御照會被下

東京市日本橋區本町三丁目十一番地　玉屋支店

顯微鏡

度詳細御答可申上候
時計及裝飾品類　顯微鏡、兩眼鏡　養蠶用諸器械
醫療理化學器械

商

明治二十五年四月七日內務省許可

大日本蠶絲會報第五拾壹號目次

● 論說

○繭の形狀に就きて　高橋信貞

○桑樹センバ病菌　市川延次郎

● 寄書

○人造絹の缺點を指摘して兼て蠶絲改良の注意を趣す　橋本重兵衛

○蠶種斧附分量沿革　田島武平

● 統計

○二十九年七月中生絲屑物輸出數量元價及收稅統計○二十九年七月中絹布類輸出數量元價統計○二十九年一月より七月に至る生絲の海外賣込及內國積出統計○新潟縣西頸城郡蠶業進步一覽表

● 問答

○蠶蛆の害に就て質問幷に答○蠶具洗滌に付質問幷に答○蠶室構造法質問幷に答

● 外報

○里昂蠶絲並伊佛養蠶景況○廣東生絲商況○西班牙國蠶業近況○浙織杭州の蠶業

● 雜報

○昨今兩年に於ける絲價○生絲檢査上外商の要望○各地方の秋蠶彙報○橫濱生絲問屋の苦慮○人造絹絲製造所の擴張○人造絹絲に就て時事子の意見○出賣繭の內地需用○桑皮絲製造の好況○生絲商館の閉店と開店○神戶蠶絲取引所に對する告發○神奈川縣下の桑園害蟲○淸國に於ける蠶業奬勵○製絲工女の違約を訴ふ○朝鮮國人の蠶業談○蜘蛛網の絹絲○蠶種檢査不合格○北海道產業傳習所の卒業式○東京生絲取引所の認可○三重縣下製絲場の損害○高山製絲業者の休業○蠶業教育費補助○橫濱生絲檢査所生絲檢査調○神戶生絲檢査所生絲檢査調○地遺絲の汽船輸送○山梨縣の蠶種檢査○宮城縣名取郡西多賀村の蠶況○露國高加索の養蠶業○歐洲流行絹織の注文○蠶兒生育景況○森成大郎氏の名譽○神戶港生絲貿易の開始期○三日間の生絲取引高○繭の改良は刻下の急務○生絲の在荷漸減少す○糸魚川蠶品評會○昨今兩年の生絲集散比較○札幌蠶業傳習所蠶況○製絲紅女堤上に悲泣す○琵琶湖の氾濫と江州の製絲場○叙任及出張○岩田次郎氏○藍綬褒章下賜

本報廣告料　一行五號活字廿二字詰前金八錢三十行以上は割引すべし

本報定價　一冊　前金拾貳錢　一ヶ年分　前金壹圓貳拾錢

明治廿九年十月二十九日印刷
同　十月三十日發行

編輯人　籾山鈞　東京市小石川區小石川水道町丗九番地

發行兼印刷人　庄田誠太郎　東京市小石川區小石川諏訪町廿八番地

印刷所　株式會社秀英舍　東京市京橋區西紺屋町二十六七番地

發行所　大日本蠶絲會　東京市神田區美土代町二丁目一番地

明治二十七年八月廿五日遞信省認可